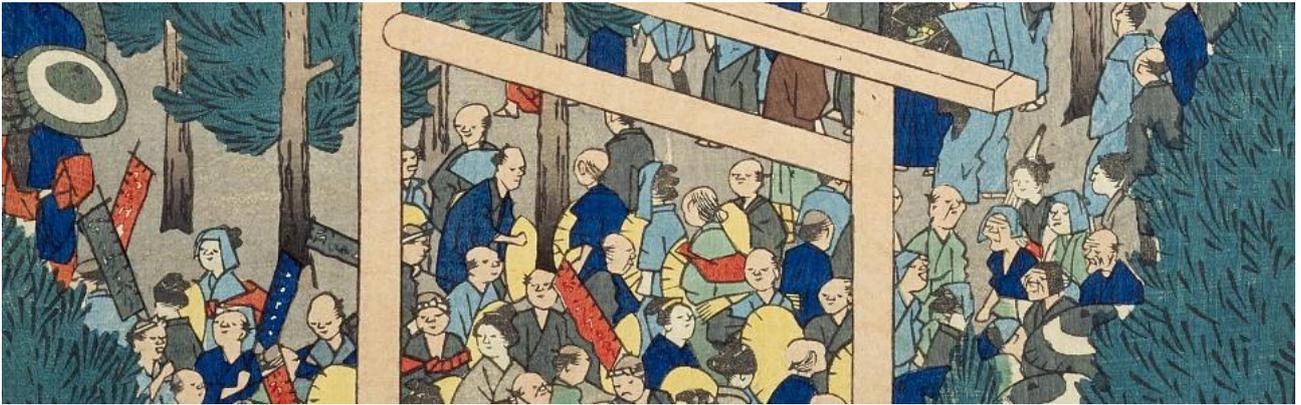


風に吹かれて秩父巡礼 弥次喜多道中ノ巻



発願：令和五年四月十七日 結願：令和五年四月廿三日

述：弥次郎兵衛／喜多八 輯：寓多羅亭鈍助

令和五年

はじめに

本駄文は、秩父観音霊場三十四札所の第2回目巡礼を悪友と二人で一週間歩いて巡った折の弥次喜多道中記である。仮に「弥次郎兵衛」を小生、「喜多八」を某悪友として下記に紹介しておく。(この二人の間には「東海道中膝栗毛」で描かれている主従関係もその方面の趣味も無いので誤解の無きように)。

「喜多八」は、小生の大学時代からの学友・岳友・呑友で既に60年間以上の悪友の付き合いとなっている。四国遍路や西国三十三観音霊場も巡礼しているが、小生と同様信仰心の程は定かではない。

大学ではお互い学部が違っていたので勉学の程は定かではないが、いずれにしても学問に励んだ様子は無かった。彼は受験高で有名な愛知県立某有名高校の出身であるが、卒業生の殆どが東に向かって東大に進学するか、悪くても地元の名大に進学する中で、何の因果か西に西にと鄙の地に流れ着いて某駅弁大学に拾われたらしいが、就職は当時は難関の某商社に就職し、得意の語学を駆使して海外を渡り歩いた材であったから、満更のアタマでもなかったであろう。彼は関西に住んでいるので、小生が西下する折は彼の自宅を定宿として一宿一飯の恩義にも与っているし、ヒマラヤや欧州アルプスなどの海外登山の弥次喜多道中も一緒に行っている。

本稿は、その相棒との弥次喜多道中記であるが、大方は物見遊山・紅灯の巷の般若会(ゑ)の中にほんの僅かだけ精進の心



(東海道中膝栗毛)

持ちと懺悔の気持ちを加えた程度のシロモノであることをお断りしておきたい。

なお、第1回目の秩父観音霊場34札所歩き巡礼は平成30年に単独で結願した。この時の紀行駄文は、拙HP <http://yamanami-harukani.world.cocacn.jp/chichibu34-pirgrimage.pdf> をご覧頂きたい。

お断り：本稿掲載の札所の写真は、その殆んどを今回の弥次喜多道中で撮影した写真ではなく、第一回目の単独巡礼の際に写した写真を使用しました。ご朱印は重ね判です。また、夫々の札所の末尾に、宗派、本尊、本尊の御真言を付記しました。



(猫も杓子も観音詣)

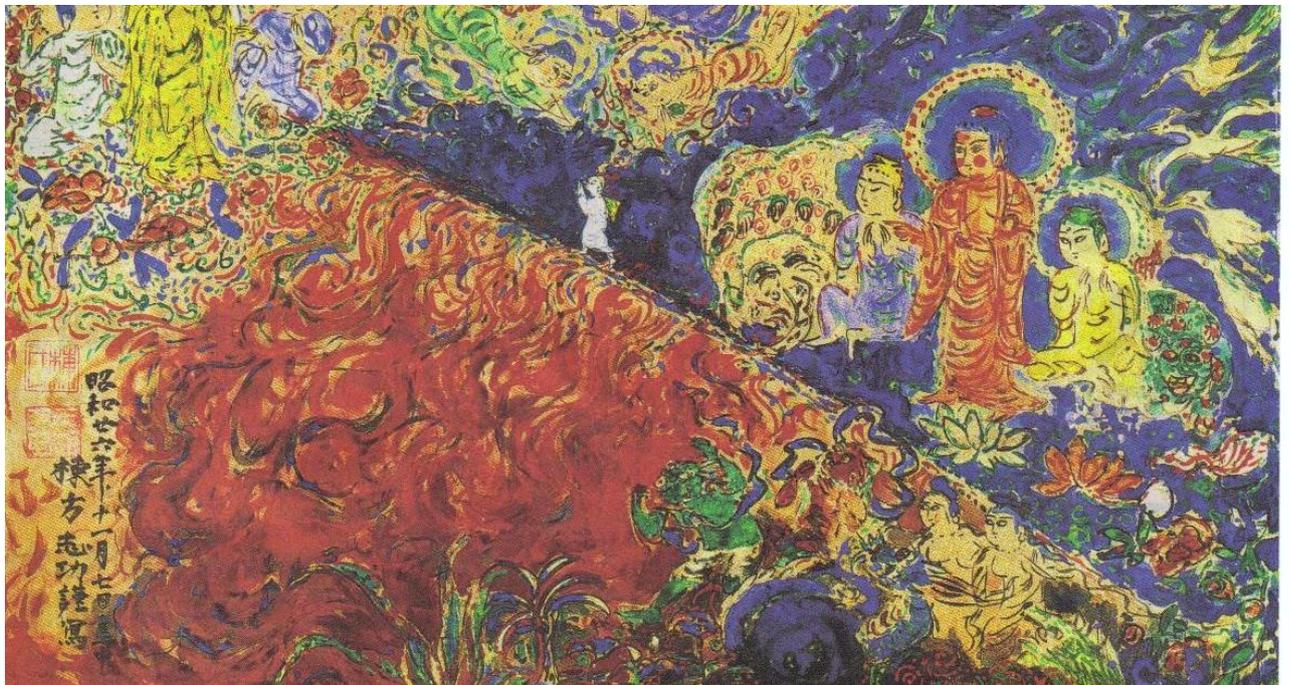
一般に撮影が禁止されている本尊などの画像は各札所寺院のホームページなどから引用させて頂きました。

仙說摩訶般若波羅蜜多心經
 觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
 蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
 異色色即是空空即是色受想行識亦復如
 是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
 不增不減是故空中無色無受想行識無眼
 耳鼻舌身意無明亦無無明尽乃至無老死
 亦無老死尽無苦集滅道無智亦無得以無
 所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心無
 罣礙無罣礙故無有恐怖遠離一切顛倒夢
 想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故
 得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜
 多是大神呪是大明呪是無上呪是無等等
 呪能除一切苦真實不虛故說般若波羅蜜
 多呪即說呪曰
 羯諦羯諦波羅羯諦波羅僧羯諦菩薩薩婆訶
 般若心經

右為 三界萬靈六道平安
 大塚忠彥 謹寫

令和五年 四月

(般若心經 写經 筆者謹写)

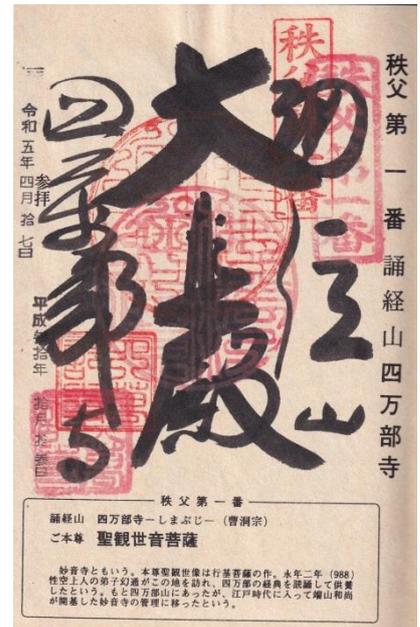


(二河白道圖 棟方志功画伯 寫)

もくじ

はじめに		2
第 1 番 誦経山「四萬部寺」	曹洞宗 聖観世音菩薩 秩父市	5
第 2 番 大棚山「真福寺」	曹洞宗 聖観世音菩薩 秩父市	8
第 3 番 岩本山「常泉寺」	曹洞宗 聖観世音菩薩 秩父市	10
第 4 番 高谷山「金昌寺」	曹洞宗 十一面観世音菩薩 秩父市	11
第 5 番 小川山「語歌堂」	臨濟宗 准胝観世音菩薩 横瀬町	13
第 6 番 向陽山「卜雲寺」	曹洞宗 聖観世音菩薩 横瀬町	15
第 7 番 青苔山「法長寺」	曹洞宗 十一面観世音菩薩 横瀬町	16
第 8 番 清泰山「西善寺」	臨濟宗 十一面観世音菩薩 横瀬町	17
第 9 番 明星山「明智寺」	臨濟宗 如意輪観世音菩薩 横瀬町	19
(番外) ちよつと休憩 羊山公園の芝桜		20
第 10 番 万松山「大慈寺」	曹洞宗 聖観世音菩薩 横瀬町	21
第 11 番 南石山「常楽寺」	曹洞宗 十一面観世音菩薩 秩父市	22
第 12 番 仏道山「野坂寺」	臨濟宗 聖観世音菩薩 秩父市	23
第 13 番 旗下山「慈眼寺」	曹洞宗 聖観世音菩薩 秩父市	25
第 14 番 長岳山「今宮坊」	臨濟宗 聖観世音菩薩 秩父市	27
第 15 番 臨濟宗「少林寺」	臨濟宗 十一面観世音菩薩 秩父市	28
第 16 番 無量山「西光寺」	真言宗 千手観世音菩薩 秩父市	29
第 17 番 実正山「定林寺」	曹洞宗 十一面観世音菩薩 秩父市	31
第 18 番 白道山「神門寺」	曹洞宗 聖観世音菩薩 秩父市	32
第 19 番 飛淵山「龍石寺」	曹洞宗 千手観世音菩薩 秩父市	33
第 20 番 法王山「岩之上堂」	臨濟宗 聖観世音菩薩 秩父市	34
第 21 番 要光山「観音寺」	真言宗 聖観世音菩薩 秩父市	36
第 22 番 華台山「童子堂」	真言宗 聖観世音菩薩 秩父市	38
第 23 番 松風山「音楽寺」	臨濟宗 聖観世音菩薩 秩父市	39
第 24 番 光智山「法泉寺」	臨濟宗 聖観世音菩薩 秩父市	40
第 25 番 岩谷山「久昌寺」	曹洞宗 聖観世音菩薩 秩父市	41
第 26 番 萬松山「円融寺」	臨濟宗 聖観世音菩薩 秩父市	43
第 27 番 龍河山「大淵寺」	曹洞宗 聖観世音菩薩 秩父市	44
第 28 番 石龍山「橋立堂」	曹洞宗 馬頭観世音菩薩 秩父市	45
第 29 番 笹戸山「長泉院」	曹洞宗 聖観世音菩薩 秩父市	47
第 30 番 瑞龍山「法雲寺」	臨濟宗 如意輪観世音菩薩 秩父市	49
第 31 番 鷲窟山「観音院」	曹洞宗 聖観世音菩薩 小鹿野町	50
第 32 番 般若山「法性寺」	曹洞宗 聖観世音菩薩 小鹿野町	53
第 33 番 延命山「菊水寺」	曹洞宗 聖観世音菩薩 秩父市	57
第 34 番 日沢山「水潜寺」	曹洞宗 千手観世音菩薩 皆野町	58

第一番札所「誦経山 四萬部寺」(秩父市)



喜多八「ここは相当の山の中だナ。それにしては、向拝といい屋根の反り具合といい立派な本堂ではないか。きっと由緒があるんではあるまいか？」

弥次郎兵衛「左様だナ。このお寺は秩父観音巡礼の一番札所であるから、それなりの名刹だそうナ。昔から関八州では関東三大施餓鬼供養の寺の一つとして名が通っており、今でも8月の大施餓鬼会には関東一円の僧侶や庶民が大勢参拝するそうダ。本堂の右側に立派な方形の御堂があるだろう。これを施食殿と言ってナ、内陣にはグルグル廻る八角輪藏が造ってあって、そこに四萬部の經典が収められているという訳だ」



(施食殿と八角輪藏)

喜「それでは、チョット廻してくるか。アリヤリヤ、柵があつて内陣に入れないゾ」

弥「待て待て。伝説に拠るとだナ、脛に傷を持つ輩が内陣に入ると、この輩は業火に焼かれて死んでしまうと云うから、これも喜多人を救う観世音菩薩サマの思し召しではないか」

喜「俺も若い頃はさんざんウォンナ（女）を泣かせたからナア～。そろそろ懺悔でもしてみるか」

弥「知らない他人が聞くと本当にするぜ。本当は女にさんざん泣かされた口ではないか」

喜「イッヒッヒ、泣かしたこともあれば、泣かされたこともあらあナ。ところで、こんな辺鄙な寺が何で発願寺の一番札所になっているのかネ？」

弥「良い事を聞いてくれた。そうこなくちゃアいけネエ～。大昔は一番札所は秩父のド真ん中にある今の17番札所「定林寺」がそうだった。その頃は秩父巡礼と言っても、秩父界隈からの地元巡礼が殆どであったので秩父の真ん中からスタートしていたのであったが、江戸時代になってから江戸からの巡礼者が増えて来てからは秩父盆地の江戸方面からの入り口に位置する江戸に一番近いこの四萬部寺からスタートするという江戸古道廻りの巡礼路が定着してきたという訳で、四萬部寺を一番札所とする札所の番付変更がなされたということになるナ。マ、金持ちの江戸衆に敬意を払った（喜捨を願った）というワケだナ」

喜「ホ、ホウ。お前えらい詳しいナ。見て来たようなナントカというのはこのことだナ」

弥「どだい日本百観音霊場（西国観音霊場33札所、坂東観音霊場33札所を合わせて3霊場で合計100札所）を巡礼している者が、この程度の知識を持たないでどうするのだ。向学心と信仰心が足らんゾ。もつとも、お布施でゴマカス手もあるがナ・・・。拙者が閻魔サマに頼んでやるから、閻魔サマに差し出す袖の下をタンマリと寄越せ」

喜「それは有り難い話だが、袖の下は閻魔大王に届く前にどこかの紅灯の二階の婆アに消えそうだワイ。ところで、施餓鬼殿の横にこの程度の伽藍にしてはいやに大きな御堂が建っているが、あれは何かいナ。鬼瓦とその下に設えられた“一番”という瓦が誠に立派であるナ」

弥「良い所に眼を着けた。あれはナ、庫裏ではあるがナ、施餓鬼の折には大宿坊の用がなせるように創られた大ホテルじや。二階は1万人ほどが施餓鬼の腕を持って座れる程の広さがあるそうだ」

喜「観音堂の天井の欄間に何やら恐ろしそうな絵が掛っているが、あれは何じゃ」

弥「よく見て見ろ。青鬼・赤鬼が血の池に亡者を沈めてイジメているだろう。その亡者の顔はそなたの顔ではないか」

喜「ナルホド、イジメられているのは間違いなく拙者だワイ。これも女を泣かせた報いかいナ？」

弥「左様だ。これは地獄之図と言うモノだ。その横を見てみろ。ハスの花が咲き誇った池泉に天女が



沢山遊んでいる絵があるだろう。その天女サマに抱かれて幸せそうな顔をしている男の顔をよく見て見ろ。これは拙者だ。こちらは極楽之図というものだ」



喜「コン畜生メ。今度閻魔に会った時には、貴様の悪行の数々をぶちまけて貴様を地獄に墮すように頼んでおくからナ。覚悟しておけヨッ！」

弥「イッヒ、ヒ。閻魔大王にはタップリ袖の下を弾んであるから、左様なご心配はご無用だワイ」

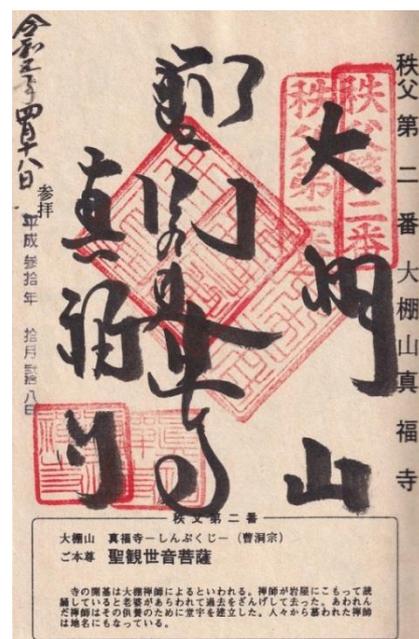
喜「地獄絵を見ていたら、背筋が寒くなってきた。隣に見える立派な旅館が今夜の宿か。早く宿に入って般若湯を供奉して、そのお零れに与ろうではないか」

弥「左様、左様。この宿はナ、旅籠一番と言ってナ、かつては一番札所門前の巡礼宿として大繁盛したそうだよ。古民家風が泣かせるではないか。早速般若湯を戴くことにしようぜ」

曹洞宗、聖観世音菩薩 オン アロリキャ ソワカ

(2023/04/17 参拝)

第二番札所「大棚山 真福寺」(秩父市)



喜多八「これが二番札所か？相当な山の中で、しかも相当な廃寺の様子だな。檀家のような人が集まって本堂の掃除をしたり内陣に垂れ幕を飾ったりしているが、今日は何かのお祭りかいナ？」

弥次郎兵衛「左様だな。ちょっと聞いてみよう。・・・。分かったぜ。今日は観音様の縁日の4月18日であるので、山麓にある親寺の住職が年に一回だけ登って来て観音供養をするのだそうナ」

喜「左様か。それでは観音供養の功德に与って行こうではないか」

弥「住職は後1~2時間待たないと来ないそうだから、我々はそこまでは待てないナ。拙者は観音供養よりも、早く里に下って、その辺の飯屋で観世音菩薩サマに般若湯を差し上げたいもんだ」

喜「それにしても、一番札所からウンウン言いながら山坂を登って2時間も掛ったこんな山中によくもお寺を造ったものだ。その説明板によれば、昔は大伽藍であったそうだが万延元年の火災で焼失、今は辛うじて寂れた観音堂だけが残っているらしい」

弥「左様じゃナ。大体からして今は廃れている廃寺の寺伝には皆そのように書いてあるナ」

喜「ところで、観音堂の壁に怪しい絵が掛っているが、あれは何だ？」

弥「良いところに気が付いたナ。流石じゃ。あの絵はナ、秩父の住人・三千女というご婦人が寺伝を描いた絵図だな。詞書には“大棚禅師、禅師が岩屋に籠って読経していると老婆が現れ過去を懺悔して去った。憐れんだ禅師はそ



の供養の為に堂宇を建立した」と記してある。太棚禅師というのはこの寺の開基であるから、前世の因縁が悪く、今生でもウォンナを泣かせたりして悪行の限りを尽くした貴様も岩屋に籠って懺悔してみたらどうじゃ」

喜「俺様はもう十分に懺悔してきたゾ。今更懺悔すべき悪行は一つも残っていないワイ」

弥「アッ、ハッ、ハッ、嘘も休み休みついたらどうか。ところでナ、これから結願寺の札所第34番「水潜寺」まで巡る全ての札所にこのような“三千女”作の説教画が掛っているの、毎回お目に掛かることになるが、霊場を巡る度に段々と食傷気味になってくるヨ。この絵のネタはナ、江戸末期の浮世絵師歌川広重・國貞・豊國が各寺の縁起と景観を分担して描いた秩父観音霊場の紹介画である『観音霊験記』という原典を分り易く模写した物らしいが、原典の格調には遥かに及ばないナ。原典は埼玉県立図書館のデジタル・ライブラリーで読めるヨ」

喜「お前さんの講釈はもう聞き飽きたから、そろそろ里に下って貴様ご推薦の安くて美味しいという飯屋で昼飯に一献傾けようではないか。それにしても、新緑に染まった山を渡って来るこの薫風に吹かれているとまさに極楽浄土じゃナ。それに山腹に咲いている満開の山藤もたいしたもんじゃのう。オン アロリキャ ソワカ」



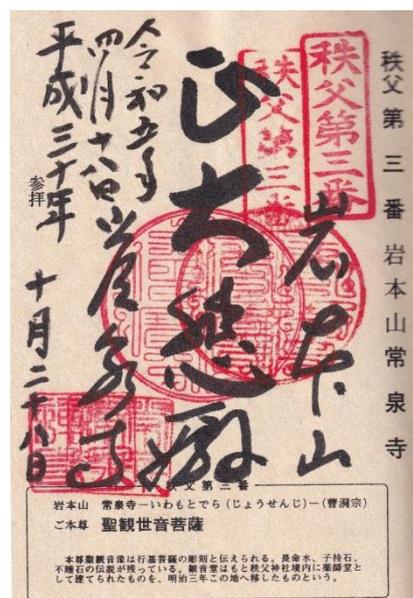
『観音霊験記』 札所二番「大棚山真福寺」

曹洞宗、聖観世音菩薩 オン アロリキャ ソワカ

(2023/04/18 参拝)

(次札所は次葉に続く)

第三番札所「岩本山 常泉寺」(秩父市)



喜多八「この寺の観音堂の銅板葺き方形屋根の反り具合もなかなかのもんじゃナ。ところで、本堂の廊下に鎮座ましましての女尻様の石が世に名高い子持ち石だナ。往時は、若い夫婦がこの寺に詣で夜は近くの武甲温泉の湯に浸かってナニをイタせば、旅の恥は掻き捨てという塩梅で子供を授かったという寸法だ。我らも今晚の泊まりは武甲温泉で迫ってみるといのはどうじゃ」



弥次郎兵衛「マ、俺様はともかく、貴様はもうその方面の能力は皆無ではないか。そういうのを瘋癲老人というのじゃゾ」

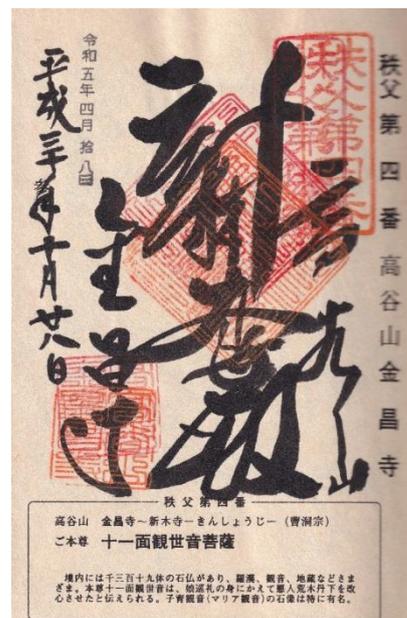
喜「アッハッハ、谷崎潤一郎の世界じゃナ」

弥「それにだナ、あの石が女の尻に見えるようでは未だ未だ修行が足らんワイ。あの石はナ、乳呑児を抱いて可愛がっている慈母観音サマのお姿であられるゾ。谷崎潤一郎は確かに助兵衛爺でもあったが、貴様は谷崎文学の真髓なるモノが分かつらん。勉強が足らんゾ」

喜「コン畜生メ。ところで、この寺の標石には“第三番補陀所”と彫ってあるナ。補陀洛というのは観世音菩薩さまがお住まいになっている西方浄土であるから、札所と書かずに補陀所と書いているのはなかなか洒落ているナ」



第四番札所「高谷山 金昌寺」(秩父市)



喜多八「この沢山の石仏群は、一体これは何かいな？ 随分と古い物や由緒ありそうな物もあるゾ」
弥次郎兵衛「これはナ、浅間山大噴火や天明飢饉の犠牲者を供養するためにだナ、往時の和尚が全国に寄進を募って集めた石仏だ。全部で4千躰程の石仏が寄進されたそうだが、明治維新の廃仏毀釈の折にその殆どが廃棄されて今残っているのは1300躰くらいだそうナ。今ある石仏の中にも首を斬られた石仏も沢山残っていて往時の廃仏毀釈の惨害が生々しく残っているではないか。そのような訳でこの寺は石仏の寺として名高い名刹大寺なのだ」

喜「左様か。ところで、観音堂の外陣に置かれている薄気味悪い仏は何じゃ？ その横には優しそうな観音様も居られるゾ」

弥「怖い顔をした婆アは例の脱衣婆だ。その隣の子供に乳を飲ませている観音様は慈母観音だ。喜多八は今生で悪行を働いているので、この脱衣婆に身ぐるみ剥がれて地獄に送られるという寸法だ」

喜「俺様は貴様と違って、脱衣婆ではなく、お優しいお顔の観音菩薩に抱かれて極楽に渡ることになっているワイ。ところで、子供を抱いている慈母観音像は珍しくないが、乳をふくませている観音像は珍しいのではないか。昔の母親は人前では子供に乳を飲ませることはしなかったそうだから、これは余程の事情があった旦那が寄進したのではあるまいか」

弥「ここに説明板があるゾ。何々、仲睦まじかった夫婦に待望の子供が授かったが間もなく妻子とも死んでしまった。その供養の為に建立した云々……。ナルホド、可愛がっていた妻子を無くした男の無念さと供養の程が滲み出ている観音様であるなア～」

喜「ここにはまた面白い酒呑み地藏が居られるゾ。この庄の名主が酒で失敗して、仏様の前で“もう二度と酒は呑みません”と誓ったが、手には徳利を離さず、頭には盃を載せて酒樽の上に胡坐を搔いている図はどう見ても禁酒した人の様子ではないナ。酒樽を担がされている相撲取り4人が忌々しそうな顔をしているのからも頷ける。なかなかユーモラスな像だナ。顔がお前に似ているが、この名主はお前さんのご先祖サマではあるまいか。オン カカカ ビサンマエイ ソワカ」

弥「アッハッハ、マ、左様かも知れんナ。拙者も酒の上では数々の失敗を仕出かしたからナ」



(薄気味悪い脱衣婆)

(慈母観音⇒)



喜「ところで、ここに来る道々にも沢山の
標石が置いてあったが、この寺の門前
にもあるな。この標石も由緒ありそうだが、何か謂われがあるのかいな？」

弥「左様、これはナ、“心求・はまの江戸巡礼古道の道しるべ”と言うてナ、江戸の住人の心求・はま
夫婦が地元の石工に作らせて秩父観音巡礼道の要所要所に置いたものだナ。これからも結願するま
での道々お世話になる道しるべじゃヨ」



(酒呑み地藏)

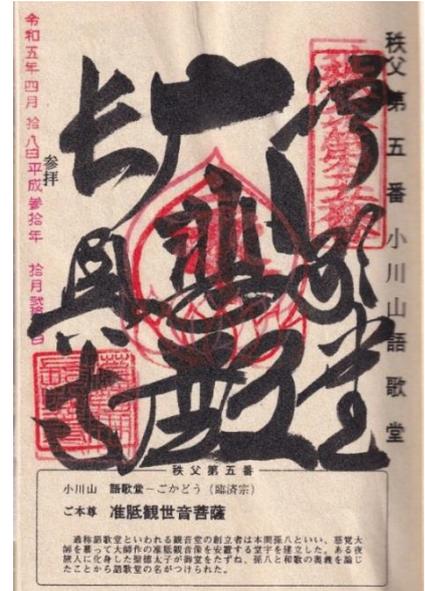


(心求・はまの道しるべ 右三番、左古ばん (五番))

曹洞宗 十一面観世音菩薩

オン マカ キャロニキャ ソワカ (2023/04/18 参拝)

第五番札所「小川山 語歌堂」(横瀬町)



喜多八「この寺にはこの観音堂しか残っていないが、方形の屋根の反り具合は大したものじゃナ」
 弥次郎兵衛「語歌堂という寺号も変わっているが、どのような縁起があるのかいナ？」
 喜「拙者が研究したところによるとだナ、旅人に化けてこの地を訪れた聖徳太子と在の豪農が和歌の問
 答を行なった御堂であるからして、この堂宇を語歌堂と呼ぶようになったそうダ」
 弥「秩父は昔から絹織物の産地でもあったから、和歌に通じた豪農や豪商も居たのであろうナ」
 喜「マ、芸術や文学などとは縁が無い貴様には縁が無いことだがナ」
 弥「喧しいワイ。ところで、この寺の風神雷神様はちょっと変わっているナ」
 喜「左様だな。ユーモラスな顔をしているナ。こんな風神雷神なら彼らが連れてくる台風や雷雨も大し
 たことはあるまい」



弥「ところで、喜多八ヨ。この観音堂のご本尊は准胝観世音菩薩さまにあらせられるが、この観音菩薩はどのような仏様かご存知か？」

喜「日本百観音霊場百ヶ寺でも滅多にお目に掛かれない御本尊観音ではないか？拙者が知るところでは、准胝観世音菩薩を本尊に頂いているお寺はここ秩父の語歌堂と西国の京都上醍醐寺の2寺だけだそう。因みに四国遍路八十八ヶ所のお寺には一つも無かったぜ。この准胝観世音菩薩の御真言を毎日百八回唱えれば寿命が21年間延びるのだそう。オン シャレイ ソレイ ソンディ ソワカ」

弥「左様か。それでは拙者もシャレイ・ソレイを毎日寝る前に百八回唱えてみるとするか。さすれば拙者も紀寿（百寿）まで般若湯を戴けるといふ寸法になるナ。ところで喜多八よ、准胝観世音菩薩の変化（へんげ）をご存知か？」

喜「勿論御存じでござるワイ。ちょっと俺様の蘊蓄を聴け。この観音様はじゃナ、心の迷い除け、厄除け、病氣平癒、子授け、安産などの現生利益を齎す観音菩薩であるゾ。また、六道の闇夜では人間界を導くお役目でもあるそう。お前さんなどは年柄年中煩悩に追われて心の迷いに苦しんでいるからして、この観音菩薩にタンマリとお布施をしなければならぬ。何だったら、俺様が供養の代行をして差し上げるからお布施を寄越せ」

弥「アハハ、お布施は俺様が直接供奉するからご心配ご無用。お前に預けると、どこかの紅灯の婆アに貢いで消えるだけだ。ところでナ、俺様の研究によるとだナ、この准胝観世音菩薩はだナ、一説によればヒンドゥーのシヴァ神の女妃ドゥルガーだそう。この女妃は傾城の美女だそうだが、背中は牙を剥いた悪魔でもあるそうじゃ。昔本邦にも渡って来て、尾が九つに裂けた古狐に化身したそうじゃ。即ち、殿様共が皆色仕掛けで騙された「玉藻御前」じゃナ。あな、恐ろしや、恐ろしや」



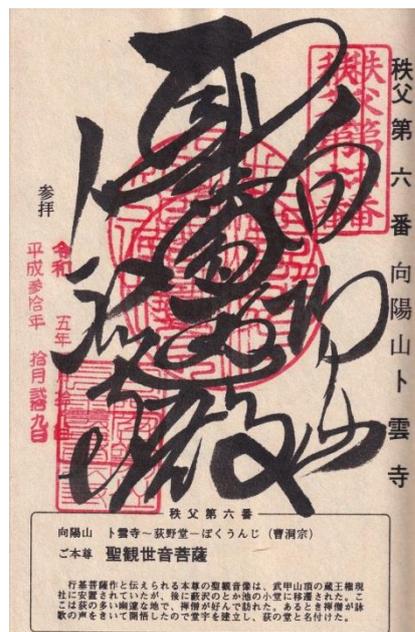
(語歌堂の御本尊 准胝観世音菩薩 (御前立て))



(玉藻御前)

臨濟宗 准胝観世音菩薩 オン シャレイ ソレイ ソンディ ソワカ (2023/04/18 参拝)

第六番札所「尙陽山 ト雲堂」(横瀬町)



喜多八「前の札所から里山の麓のアップダウンの道を随分と歩いて来たが、六番寺は未だかいナ？」
 弥次郎兵衛「左様じゃのう。途中に“寺坂の棚田”という名所があるそうだが、未だか」

喜「あそこに駐車場があり何か看板が建っているが、そこがそれではないか？・・・左様だ、寺坂棚田と書いてあるゾ。しかし、随分狭い棚田だナ。これではウラヤマの小さな田圃ではないか。看板に偽りありだヨ」



(寺坂棚田 バックの山は武甲山)

弥「左様、左様。しかし、鄙の地では客寄せのために色々趣向を凝らさざるを得ないのだろうナ。やっと六番寺の屋根が見えてきたが、これはまた急な坂道だナ。息が切れるワイ」

喜「しかし、高台だから景色は良いナ。武甲山が目に見えるが、石灰岩採掘で山体が半分ほども削り取られているのは気の毒だ」

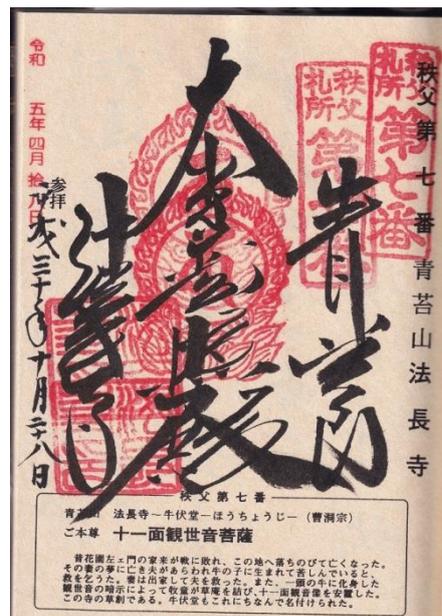
(ト雲寺付近から武甲山を望む⇒)

曹洞宗 聖観世音菩薩
 オン アロリキャ ソワカ

(2023/04/18 参拝)



第七番札所「青苔山 法長寺」(横瀬町)



喜多八「ここは秩父随一の大寺じゃそうだが、本堂の中に平賀源内が観音堂を別に設えた結構が珍しいと世に知られているそうじゃ。牛に関する縁起もあるそうじゃナ。」

弥次郎兵衛「なかなか詳しいではないか。俺様は寡聞にして知らなかった」

喜「マ、平賀源内は一種のキチガイ・オタクの変人だから、往時の住職もコロリと騙されて左様な観音堂を造ったのではないか。牛の縁起はだナ、昔々牧童が草刈りをしていると牛が現れ座って動かなくなったので調べて見ると、草の中に観音像を発見し御堂を立てて祀ったというのがこの寺の縁起だそうナ」

弥「左様か。しかし、今日は草臥れたナ。喜多八のスマホの歩測計では本日は何万歩を示しているかい？」

喜「3万歩だ」

弥「それはもう足弱の拙者には beyond my ability だ。」

この次の札所は8番寺の西善寺であるが、そこまでは遠い

ので、下の谷を隔ててすぐ前にある9番寺・明智寺を打ってから本日は終わりとしようではないか」

喜「結構、結構。般若湯が呼んでいる。今夜は秩父の裏町の赤提灯に出掛けようではないか」

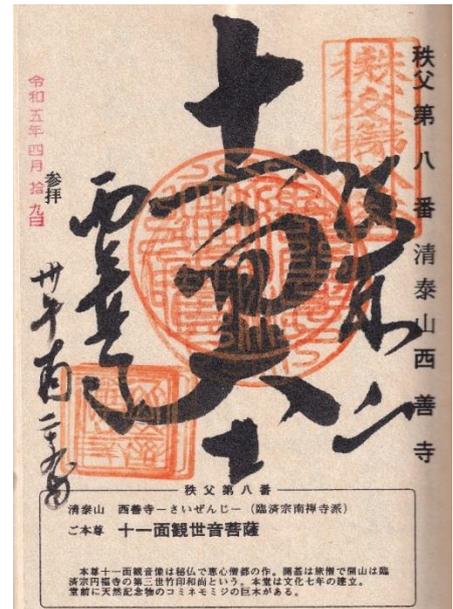


補記：宿（みやびコンフォートホテル）のネエチャンご推奨の「居酒屋あい」なる赤提灯の暖簾を潜ってみた。独りでやっているオバハン女将がなかなか愛想が良かった。地元の連中が寄合の後などに集まる常連飲み屋になっているらしい。安くて良い店だったので左党の皆さんにオススメしたい。

曹洞宗 十一面観世音菩薩 オン マカ キャロニキャ ソワカ

(2023/04/18 参拝)

第八番札所「清泰山 西善寺」(横瀬町)



喜多八「ここはまた随分と山奥だナ。ところで、この札所のご本尊は何かいナ？」

弥次郎兵衛「十一面観世音菩薩だそうだが、秘仏なので12年に1回午歳にしか御開帳にならないらしい。十一面観音は普通は立像であるが、ここの十一面観音は珍しく坐像だそうだからお目に掛かりたいもんだが、拙者の干支の午は4年も先だからもうアチラに渡っているナ。残念無念。マ、向うでお目に掛かるとするか」

喜「マ、貴様が馬面下げて彼岸を歩けば観音様も憐れんで救い上げてくれるのではないか。ところで、このコミネカエデの大木は立派なもんだナ。埼玉県天然記念物、樹齢6百年、樹高9m、幹回り3mと書いてあるゾ。紅葉の頃も見事であろうが、今の新緑も見事だなあ。



(樹齢6百年のコミネカエデの巨樹と六地藏)

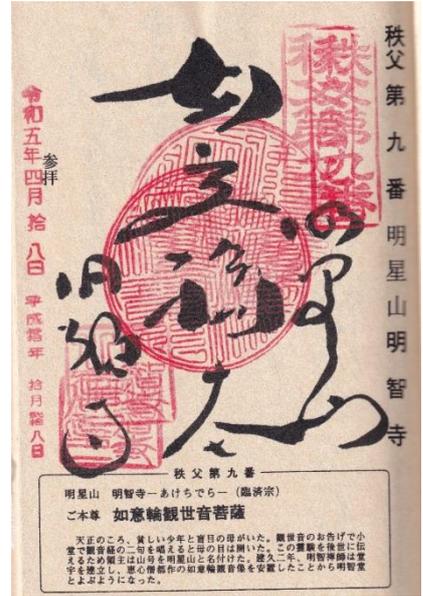
弥「左様だナ。この寺は今は臨濟宗の禪寺であるがナ、昔は念仏寺であったそうじゃ。念仏踊りだナ。そのことは、靈驗記にも書いてあるので読んで見ろ。お前さんはスマホの達人だから、埼玉県立図書館に保存されているデジタル・ライブラリーにアクセスすればいつでも読めるヨ」



（『観音靈驗記』 秩父8番西善寺 左端の禪僧らしき人物は踊る阿呆を苦々しく見ているのか？）

臨濟宗 十一面観世音菩薩 オン マカ キャロニキャ ソワカ (2023/04/19 参拝)

第九番札所「明星山 明智寺」(横瀬町)



(・・・第7番「法長寺」から第9番「明智寺」に向かう横瀬橋畔の山坂道にて・・・)

弥次郎兵衛「これはこれはキツイ坂道じゃ。悪行の懲らしめに間質性肺炎+肺気腫+気管支喘息なる三重苦の持病に罹って息切れ絶え絶えの拙者は納経所閉所時刻に間にあわないかも知れんから、喜多八よ、先に行って納経所を暫時開けておいて貰えるように頼んでくれんか」

喜多八「よしよし、分かった。ゆっくりで良いから
這いながらでも辿り着くべし」

弥「こん畜生メ！歩けなくなった相棒を背負ってでも
お連れ申すのがトモダチというものではないか」

・・・・・・・・・・・・・・・・

喜「これはまた、やけにこじんまりとした寺だな。
小さな堂宇の観音堂があるだけではないか」

弥「左様だな。しかし寺伝によるとだな、なかなか
由緒がある古刹らしいぜ。御本尊の如意輪観世音菩薩はナ、かの往生要集の作者で名高い恵心僧都の刀であるそうだ。また、安産子育ての観音様でもあるので縁日には女性の参詣者でにぎわうらしい。加えて、天正の頃、某と言う少年が盲目の母親と観音堂にこもって一心に読経をしたところ、明け方に母親の目があいたことから、眼の病の治療にもご利益があるといわれているらしいゾ」



(母親の目が開いた 服部應賀著「百観音霊験記」)

臨濟宗 如意輪観世音菩薩

オン ハンドマ シンダマニ ジンバラ ウン

(番外) ちょっと休憩 羊山公園の芝桜

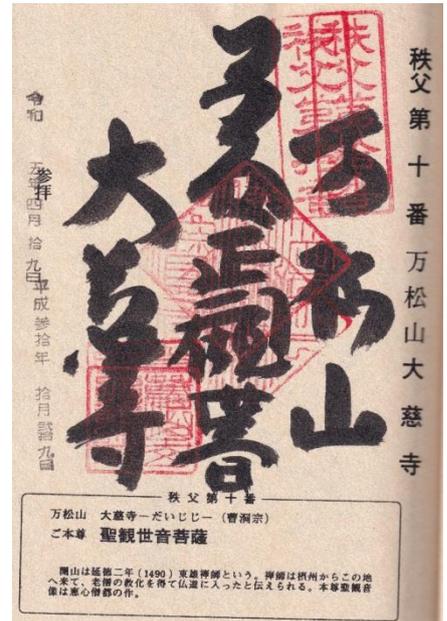
秩父市街地のど真ん中にこんもりした丘があり、ここが市民憩いの公園になっていて羊山公園と呼ばれている。足下の秩父盆地の眺望も良い。ここは芝桜の名所ともなっていて、折から満開の時期でもあったので見物してみた。平日の早朝というのに、公園に入る道路は車の大渋滞を起こしていた。又、芝桜園の入り口には何十軒もの露店が店を並べていた。秩父の夜祭と肩を並べる一大イベントになっているらしい。



(羊山公園の芝桜 バックの山は石灰岩の採掘によって山体が半分無くなった武州・甲州県境の武甲山)

(2023/04/19 参観)

第10番札所「万松山 大慈寺」(横瀬町)



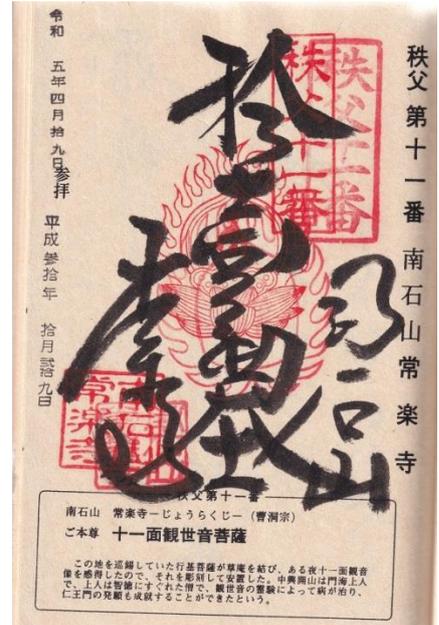
(・・・順番を変えて先に詣でた11番札所「常楽寺」から江戸古道の山道を辿る道すがら・・・)

喜多八「さっきの11番の住職(寺男?)は、“10番はこの境内のすぐ裏山をほんの10分か15分くらいで着くよ”とノタマッタが、もう1時間くらい歩いているのにサッパリ着かないではないか」
弥次郎兵衛「左様だな。10分と言ったのは車のことではないか?最近歩く巡礼はめっきり減って皆さん殆ど車だから歩き巡礼の道筋や所要時間などをちゃんと知っている住職は少ないのではないか」
喜「そのようだ。実に怪しからんワイ。云々・・・」
弥「これが深山であれば、遭難するかも知れんゾ。さすれば、どう責任を取ってくれるのだ?腹も立ってくるが、マ、新緑の気を浴びて樹林の中を歩くのも悪くないと思うしかないぜ。それにしても、朝の初っ端から草臥れたなア～」

・・・・マ、それは兎も角・・・・

曹洞宗 聖観世音菩薩 オン アロリキャ ソワカ (2023/04/19 参拝)

第11番札所 「南石山 常楽寺」(秩父市)



喜多八「さっきの羊山公園の芝桜は見応えがあったが、羊山公園の端から端まで随分とアップダウンがある道を歩いて来たから草臥れたナ」

弥次郎兵衛「左様だナ。この寺は羊山公園のすぐ北にあるのだが、芝桜は同じ羊山公園でも最も南端にあるから、歩いて小1時間ほど掛かったナ。

喜「それにしてもこの寺は国道の直ぐ脇にあって車が煩く落ち着かない寺だナ。境内も狭いし、観音堂も小さいナ。しかし、まア、守り本尊が俺様の干支本尊の普賢菩薩であるというから、よく拝んで行くか」

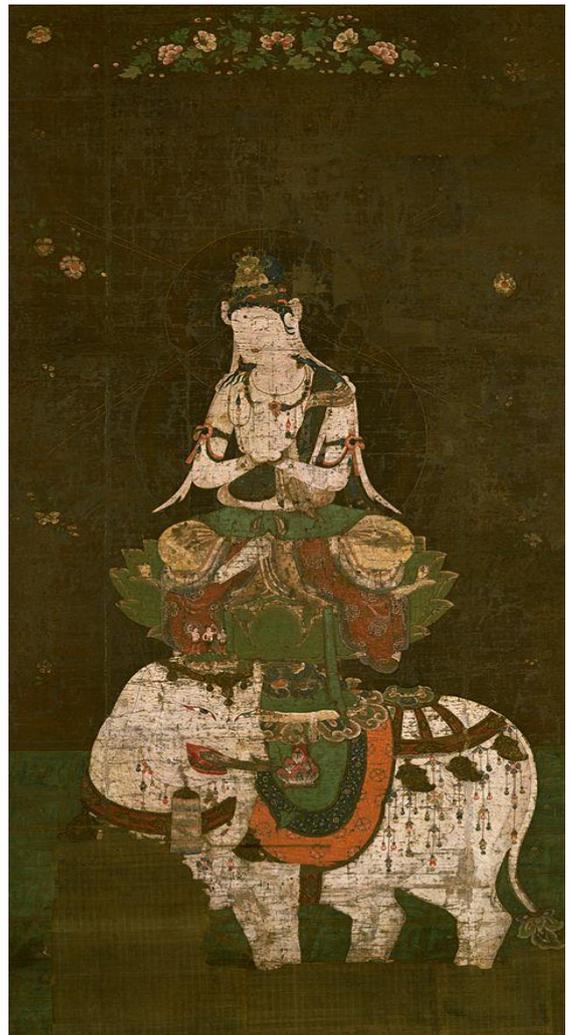
弥「厄除けの元三大師も祀られていて、毎年正月に行われる厄除開運の元三大師縁日には大勢が詰め掛けるそうだよ」

曹洞宗 十一面観世音菩薩
オン マカ キャロニキャ ソワカ

(2023/04/19 参拝)

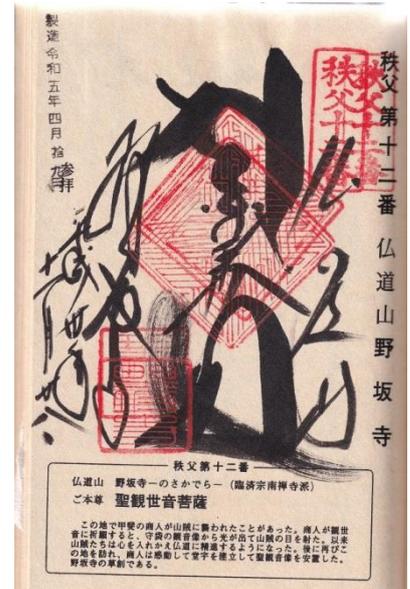


(元三大師)



(喜多八の干支本尊 普賢菩薩)

第12番札所 「仏道山 野坂寺」(秩父市)



喜多八「この山門は立派だ。八脚門の重層楼門造りだナ。花頭窓の白壁と黒の楼門のコントラストが洒落ているゾ」

弥次郎兵衛「左様だナ。それに境内を守護している山門の仏様もちょっと変わっているゾ。普通は吽形の仁王様が鎮座ましまして居られる左側の花頭ノ間には閻魔大王を中心に水帝王や五官王、右側の花頭ノ間には五道天輪王を真ん中に大山王、変成王などの十王像が置かれているナ」



(山門の十王像)

喜「山門の裏側の間には風神・雷神が居られるが、珍しいことに雨神もおられるゾ。風神雷神だけでは足りずに雨神までお呼びせねばならヌ程秩父盆地は水不足なのかいな。それに風神雷神像の前には預かり観音という観音様が祀ってあるゾ。これは何じゃ。表示板が掲げてあるナ。ナニナニ、右側：怒り・腹立ちを預けて平常心に戻りましょう、中央：病気・痛みを預けて楽しい日々を過ごしましょう、左側：煩い・悩みを預けてやすらぎの心に戻りましょう、か。ナルホド、ナルホド。それでは拙者は大阪北新地に囲っているヲンナ(女)共を預けてみるか」

弥「何が囲っているヲンナかいナ。ヲンナを囲む甲斐性があるのかいナ。ところで、大きな牛も居るナ」
 喜「左様じゃ。看板に書いてあるゾ。この牛はかって20トンの牛車を引いていた実在の力牛で、この一木彫も2トンの目方があるそうじゃ。牛の背中にお座りになっているのは十牛観音と書いてある」



(左：風神、中央：雨神、右：雷神)



(十牛観音)

弥「山門の横に十三仏尊堂という御堂があるゾ。これは何じゃ」

喜「阿弥陀如来、大日如来、十二支の守り本尊などの十三仏が祀ってあるそうだ。拝んで行くか。」

ちょっと薄暗いので、独りで入ると仏様に一斉に見られているようでチョット怖いナ。お前さんは脛に多くの傷を持っているから猶更ではないか？。どれどれ、拙者の守り本尊・普賢菩薩はどこにおらっしゃるかナ。アッ、ここに居られたが、この普賢菩薩サマは象にお乗りになっていないゾ」

弥「拙者は干支の守り本尊なるモノはご存じござらヌが、拙者の守り本尊とやらは誰かいナ」

喜「お前さんは午だから勢至菩薩サマじゃ。マ、どちらも午だから、馬面をしとるワイ」

弥「馬鹿を言うでない。勢至菩薩サマはナ、智慧の光で六道に迷う衆生を照らし、救いの道を示す尊い仏様じゃ。貴様のような無知な衆生が地獄道、餓鬼道、畜生道に落ちないように救っている訳ダ。」

たまには俺様を拝んだら如何か。今宵の紅灯の般若湯を喜捨してくれれば、救ってやっても良いゼ」

喜「この糞っ垂れメ！」

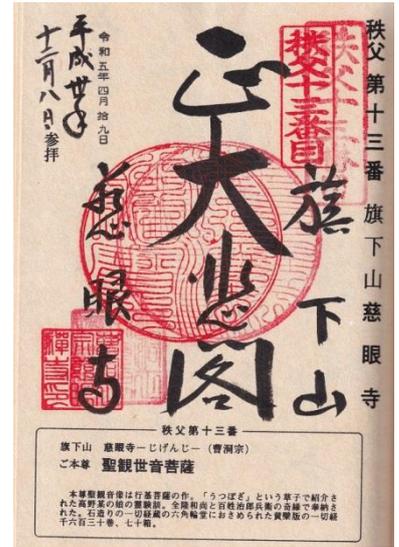


(十三仏尊堂)



(勢至菩薩 オン サンザンサク ソワカ)

第13番札所 「旗下山 慈眼寺」(秩父市)



喜多八「ハハーン、ここが秩父 34 札所を束ねる慈眼寺か。秩父の街の真ん中にあるし、秩父観音霊場の親分寺でもあるので、参拝者も多いナ」

弥次郎兵衛「左様じゃナ。ところで、ここは「目の寺」と言うことになつとる。目の仏様の瑠璃光薬師如来が祀ってあって、毎年夏の縁日には露店が境内から溢れて前の道路まで埋め尽くすほどの賑わいさうな。2 百軒ほども並ぶらしい。境内にメグスリの樹という樹木が生えていて、この葉を炒り出したメグスリノキ茶なるものがこの寺の名物土産さうな」

喜「俺様は最近両目とも白内障手術をしたので眼の茶の土産は要らないが、お茶のサンプルの接待を飲んでみるか。貴様は最近白内障の進行が激しいそうじゃから、買って帰って飲んだら如何か。また、能書きによれば、眼病の御利益だけではなく、学業や仕事で「芽が出る」ことを願う輩が全国から参拝に来るさうだ。貴様もたっぷりとお布施を奉納すれば、少しは「芽が出る」のではないか？」

弥「イッヒッヒ、折角のご忠告では御座るが、拙者は学問でも仕事でも既に充分過ぎる程の芽が出たからもうこの歳で望むことは何も無いワイ」

喜「左様か。ところで、どっしりとしている本堂は一番寺の四萬部寺の本堂にそっくりだナ」

弥「左様だ。ここの本堂は明治の秩父大火で焼失してしまったので、四萬部寺の本堂を模して再建されたのださうな」

喜「ナルホド。ところで、あそこに経蔵があるな。看板によれば、経蔵の中には一切経 1,600 巻が納められた輪蔵があるさうだ。これを廻すと一切経の功德に与れるさうだから廻してくるヨ。・・・重くて重くて廻せなかった」

弥「この輪蔵はナ、前世の悪因、今生の悪事多々の輩には輪が廻らないように仕組まれているさうじゃ。或いは、喜捨が足らなかったのと違うか」



(一切経 1,600 巻の経蔵輪蔵)

喜「この辺の道路脇には風情のありそうな標柱が
あちこちに建っているな」
弥「左様だナ。道案内の標柱だが凝ったものだナ。
秩父の歴史と情緒が感じられるナ。
ここ慈眼寺山門前に建っているのは秩父夜祭
の山車の様子を刻んだ標柱だナ。」
喜「ナルホド、慈眼寺付近は秩父夜祭の中心地と
言う訳だナ。秩父夜祭は世界遺産で、日本三
大曳山祭りのひとつじゃそうじゃナ」

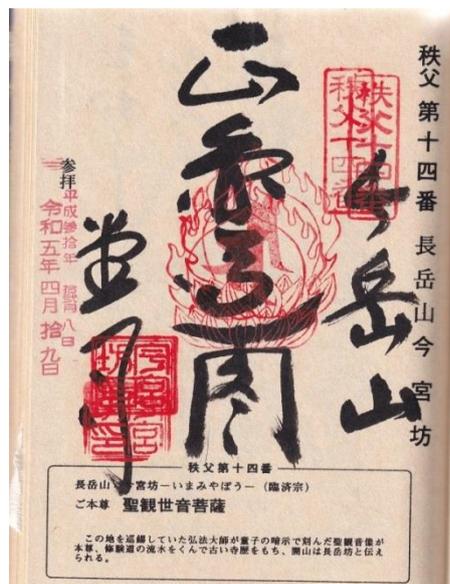
曹洞宗 聖観世音菩薩
オン アロリキヤ ソワカ

(2023/04/19 参拝)



(秩父夜祭の山車)

第14番札所 「長岳山 今宮坊」 (秩父市)



喜多八「このお寺は隣の今宮神社に較べて随分と小さな伽藍だなア〜。廃仏毀釈でイジメられて片隅に
 追いやられたのだらうナ。かつては、「〇〇坊」と言えば通例は「〇〇神社」の別当寺院であ
 ったからして大繁盛を誇ったものだ。四国遍路の札所第55番の今治「南光坊」が日本の神社
 総本庁である愛媛県大三島の大寺院「大山祇神社」の別当寺として今でも豪壮な伽藍を誇って
 いるのがその良い例だ。それに比べてこの寺は哀れな程小さいナア〜」

弥次郎兵衛「マ、寺の有り難さは伽藍の大小だけで決まるものではないゾよ。チョイト、観音堂の中を
 覗いて見ろ。ご本尊の聖観世音菩薩の隣には脇の不動明王と飛天が侍っているゾ。何れも大し
 した仏像だ。特に右脇の飛天像は腰の辺りが曲線美に富んでいて、なかなかによろしいネ」

喜「仏様を左様な眼で見ると罰が当るぜ。この瘋癲老人メ」

臨濟宗 聖観世音菩薩 オン アロリキャ ソワカ (2023/04/19 参拝)



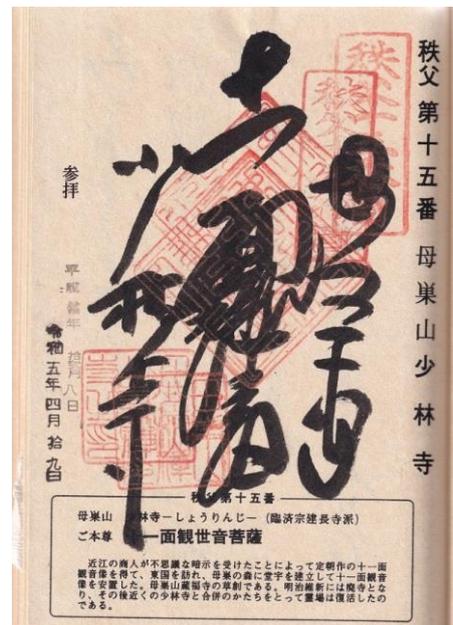
(飛天像)

(観音堂内陣 中央：聖観世音菩薩、左脇：不動明王、右脇：飛天像)

第15番札所 「母巢山 少林寺」(秩父市)

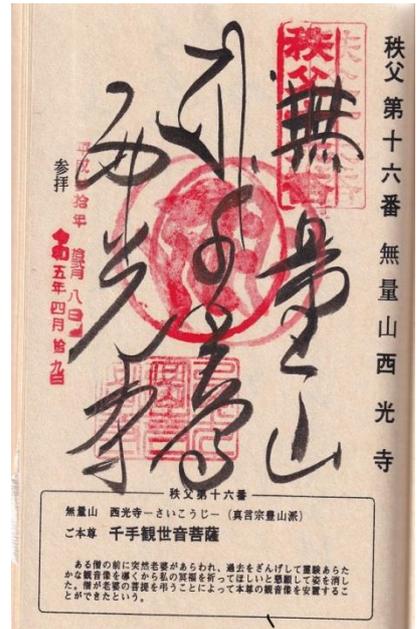


喜多八「この本堂の造作はちょっと日本離れしているゾ。白壁がカーサ ブランカ風だな」
 弥次郎兵衛「左様だな。実はナ、明治の秩父大火で焼失した本堂を再建した際に、大火の教訓に学んだ
 結果、火災に強い漆喰白壁の土蔵造りにしたそうだ。本堂が土蔵造りのお寺は秩父ではここだけだナ」
 喜「左様か。牡丹が沢山咲いているナ。黄色の牡丹も咲いているが、これは珍しいナ」



臨濟宗 十一面観世音菩薩 オン マカ キャロニキャ ソワカ (2023/04/19 参拝)

第16番札所 「無量山 西光寺」(秩父市)



喜多八「秩父観音霊場の札所は曹洞宗や臨済宗の禅寺が殆どだそうだが、珍しく真言宗のお寺が出て来たナ。西日本の住民は高野山や弘法大師が身近だから真言宗と聞けば何となく心が安らぐナ」
 弥次郎兵衛「拙者が調べたところでは、秩父観音霊場 34 札所の内、曹洞宗が 20 札所、臨済宗が 11 札所、残りの 3 札所が真言宗だ。それも皆同じ豊山派だし、場所もこの近辺に限られているので、残りの真言宗の 2 寺はこの寺の分家ではなかろうか」
 喜「なるほど、ナルホド。そう言えば、本堂の横に四国遍路八十八箇所のミニ霊場回廊が設えてあるゾ。序に拝んで行こうではないか。祀ってある八十八ヶ所の勧進本尊もなかなか立派な仏像だ」
 弥「左様だナ。ミニ遍路行脚道は全国至る所に造られているが、大抵は小さな勧進本尊の石仏が野晒しになっている場合が多い。お寺の境内に造ってある場合は大抵は 1 分間も掛からずに廻れる程度のシロモノだナ。それに比べて、この寺では態々長い回廊堂まで作って、勧進本尊も夫々立派な厨子に入れてあるゾ。」



(四国遍路ミニ霊場「回廊堂」)

喜「弥次郎ヨ。ここに面白いモノがあるぞ。ナニナニ？酒樽の上に座っている大黒天か。今生で呑み過ぎたお前さんはこの大黒天を拜んで懺悔したらどうじゃ。それとも、お前さんが大黒天に代って酒樽の上に座るといふ手もあるゾ。今晚の夜巡礼は紅灯行脚は止めにして、この酒樽の中で大黒天様に般若湯を差し上げるといふのは如何じゃ」

弥「それはグッド・アイデアだ。ちょっとこの表示板を読んでみる。この樽は30石樽だそうで、毎日3合呑んだとしても30年間分の酒が入ると書いてあるぞ。誠に結構、結構。それにしても、この寺の住職も大酒呑みではあるまいか」

喜「今時珍しい札堂もあるナ。昔は紙の札ではなく板の札に名前を書いて札堂に納めたそうだが、今でも札堂が残っているのは秩父ではこの寺だけだそう」

弥「ホホウ、左様か。ところで、本堂の欄間に掛っているのは涅槃のお釈迦様だナ。喜多八よ、我々もお迎えの折には斯様な姿で阿弥陀如来サマをお迎えしたいもんじゃノウ〜」

喜「俺様は兎も角、今生の悪行で地獄に落ちるお前さんのお迎えは閻魔大王や赤鬼や青鬼や餓鬼等の地獄の卒だワイ」

弥「何を抜かすか、この糞っ垂れ！」



(秩父 34) 札所中、唯一残っている札堂)

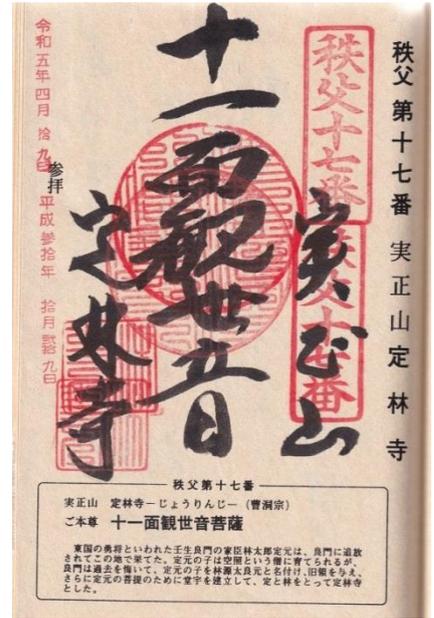


(釈迦涅槃像)

真言宗 千手観世音菩薩 オン バザラ タラマ キリク ソワカ

(2023/04/19 参拝)

第17番札所 「実正山 定林寺」(秩父市)



喜多八「前の札所の話では市民病院の直ぐ先だと言っていたが、いくら歩いても市民病院が現れないではないか」

弥次郎兵衛「左様だナ。道案内標識も全く無いナ。これは順路が違うようだが、あの先のこんもりした鎮守の森がお寺ではないか？前回の第一回目の折にもこの辺りで道が分らなくなってウロウロした記憶があるよ」

喜「人に聞こうにも全く人影も無いナ。マ、行ってみるしか無いゼ」

弥「やっとたどり着いたか。そこの鐘はナ、日本百観音霊場の本尊と御詠歌が刻み込んである有り難い鐘じゃ。その音の良さで秩父三名鐘と言われておるそうじゃ。喜多八も撞いて見ろ。アッハッハ、ちよいと音が割れたナ。悪事を働いた輩が撞くと音が割れるそうじゃナ。ところで今日は草臥れ切ったナ。本日はこれにて打ち止めにして、紅灯の巷に走ろうや」

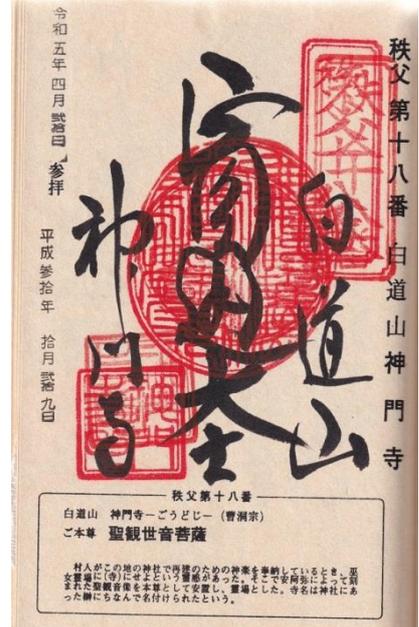
喜「異議なし」

弥「今晚泊まる秩父駅前のホテルの近くにチョイト由緒のある食堂がある。明治時代にカフェとして建てられた西洋風建物が国の文化財になっておる。汚い食堂であるが、そのオムレツが天下第一品で東京からも有名人が態々喰いに来るそうだ。店の名前を「パリー」と言う。

喜「異議なし。今晚はそこに供奉しようぜ」



第18番札所 白道山「神門寺」(秩父市)



喜多八「この寺には半地下式の回廊巡りがあって、御本尊・聖観世音菩薩の座の下に大日如来や虚空蔵菩薩が祀られているそうじゃが、回廊崩壊の危険性有りということで閉鎖されておるナ。残念至極」

弥次郎兵衛「前回詣でた折には入れたが、回廊は真っ暗けで怖かったぜ」

喜「お前さんは行いが悪いから、それは天罰というものじゃ」

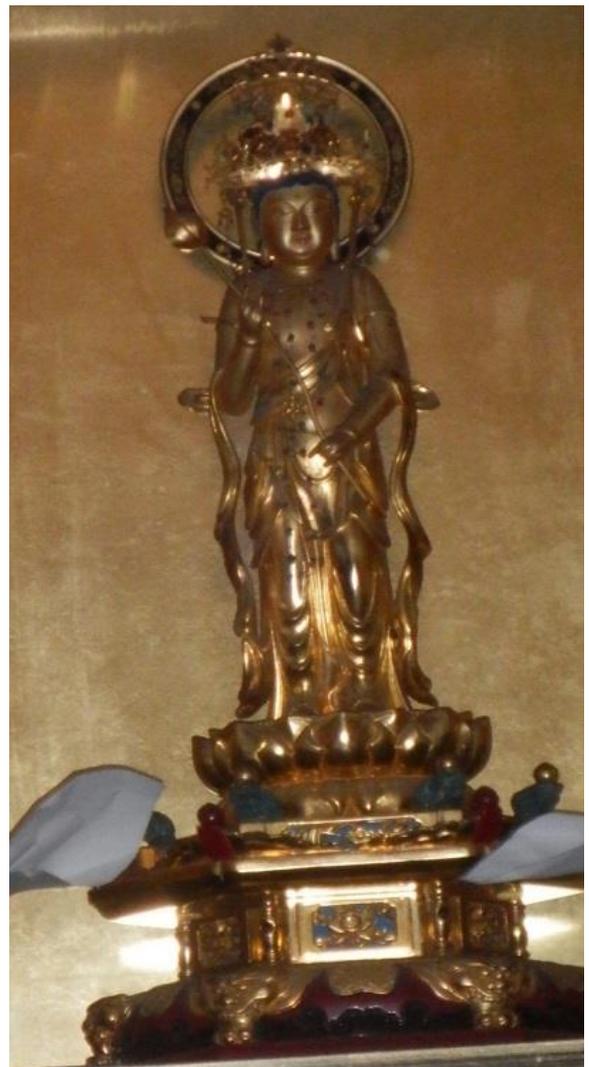
弥「糞っ垂れ！ところでナ、御本尊をよく拝んでみる。特に両手のお姿をよく見て見る」

喜「特に変わったことは無いようであるが・・・」

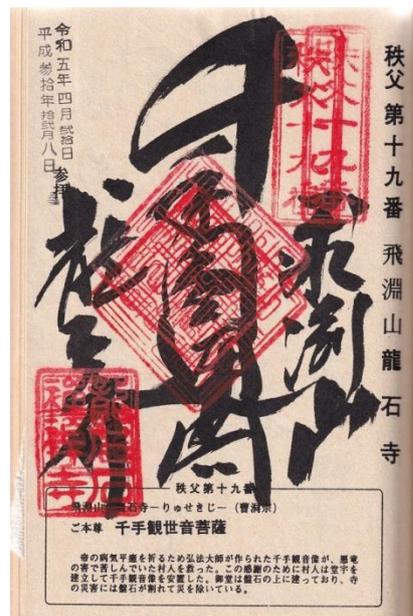
弥「観察が足らん。ここの御本尊・聖観世音菩薩は両手で蓮の茎を持っておられる珍しいお姿じゃ。室町時代の作じゃナ」

喜「そう言われれば、そのとおりじゃナ。この蓮茎を両手で持っておられる仏様は四国遍路八十八ヶ所でも西国観音霊場でも偶に見掛けるがナ・・・」

曹洞宗 聖観世音菩薩
オン アロリキャ ソワカ
(2023/04/20 参拝)



第19番札所 飛淵山「龍石寺」(秩父市)



弥次郎兵衛「この寺がある旧秩父大橋の袂の高台は全山全てが一枚岩の岩盤で、その上に寺の本堂などが建てられているそうナ」

喜多八「そのようだな。大昔は秩父は海の底だったのが隆起して今の秩父盆地になったそうじゃが、そういう塩梅で秩父は至る所に褶曲した地層が出ている崖が見られる。このために、秩父は日本地学発祥の地と言われており、現在ではあちこちにジオパークが整備されておる」



弥「お前さん、なかなか詳しいナ。ところで本堂の横に小さな御堂があるが、あれは何か知つとるか」

喜「さっき覗いて見たら閻魔大王と脱衣婆と御賓頭廬様が居られたゾ」

弥「左様、左様。三途婆堂と言う。お前さんが三途の河を渡って地獄に落される時に通らされる関所だ。

しかしナ、ここの脱衣婆は子育て婆さんとして親しまれているそうだよ。それにしても、本堂の方形屋根の反り具合と言ひ流れ具合と言ひ、これはタダモノの腕ではないナ」

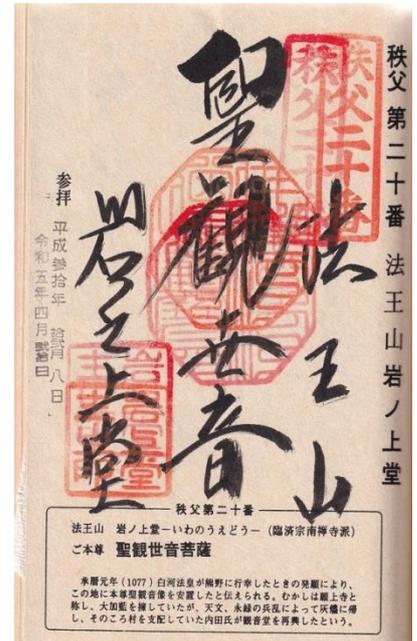
喜「ところで、この寺の裏手の荒川源流を渡った所にこんもりとした丘の森が見えるが、あれが次の20番札所「岩之上堂」か？」

弥「左様だ。ぼつぼつ行くか」

曹洞宗 千手観世音菩薩 オン バザラ タラマ キリク ソワカ

(2023/04/20 参拝)

第 20 番札所 法王山「岩之上堂」(秩父市)



喜多八「ここは眺めの良いところだな。足下には荒川源流を渡って来た旧秩父大橋や、その先には一つ前の札所第 19 番もよく見えるゾ」

弥次郎兵衛「左様だな。ここの台地も先程の 19 番・龍石寺の台地と同様で巨大な露岩の一枚岩の上に建っている。マ、荒川を挟んだ兩岸の河岸段丘が大きな岩盤で出来ており、両寺は荒川を挟んで対峙しているという寸法だ」

喜「ところで、この観音堂は古色蒼然たる貫禄と情緒があるナ。秩父では一番古い御堂だそうじゃナ」 (旧秩父大橋、今は歩道専用の観光橋になっている)

弥「左様。それにナ、この観音堂が建っている大岩は大観岩と呼ばれていて、その下の荒川源流の川崖の洞窟には奥之院があったそうだから、この寺は昔は修験の寺であったと思われる。或いは、修験者は川を泳いで渡って隣の 19 番・龍石寺を往復する行を行っていたのかも知れんナ。足を縄で縛って確保してやるから、お前さんも大観岩から身を乗り出して懺悔して見たらどうじゃ」

喜「俺様は貴様と違って善根を積んで来たから懺悔の必要は無いワイ。ところで、この岩之上堂は江戸時代から続く旧家の個人の所有だそうだが、奇特な人も居るものだな。ところで観音堂の天井から沢山の小さな折り紙状の物が賑々しくぶら下がっているが、あれはいったい何じゃ？」

弥「あれはナ、瓔珞と言ってナ、古裂や綿を花笠や猿子の形に縫い上げた物で、天蓋一張に千個吊るされていて千疋猿と言われているそうじゃ。昔々、この地の孝行息子が母親の看病に行く為に対岸に渡らんとしたが、大水が出て舟が流されてしまって困っていると小舟に乗った子猿が現れて向う岸に渡してくれた。この子猿は観音様が子猿に姿を変えたものだったという故事に因んでいるそうだ」

喜「左様か。それにしても、風格あるこの観音堂には賑々しい飾りはチト不似合だな」 — 34 —





(風格ある岩之上堂 観音堂)



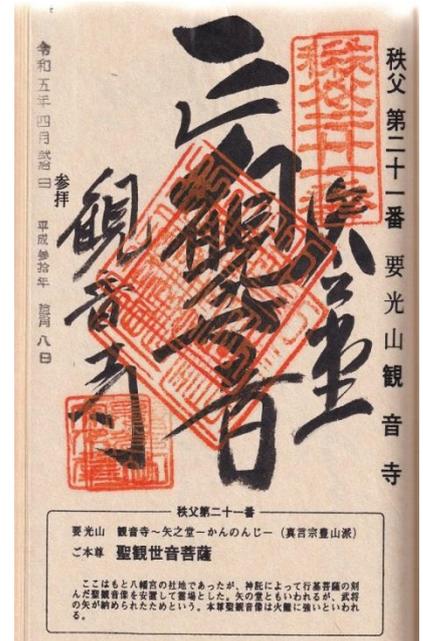
(観音堂に吊るされた沢山の瓔珞)

弥「それでは次の札所に参ろう。ここから半時間ほどだ。

喜「天気も上々、荒川源流の新緑の薫風に吹かれて寿命も延びるゾ。これぞ観音サマの御利益だ」

臨濟宗 聖観世音菩薩 オン アロリキヤ ソワカ (2023/04/20 参拝)

第21番札所 要光山「観音寺」(秩父市)



弥次郎兵衛「この寺はチト情緒と風情に欠ける寺じゃノオ。もつとも、県道に面しているから庶民的でオープンで誰でも自由に入れるから、ちょっと休んで行くには誠に結構であるナ」

喜多八「左様だナ。ところで、ここに百万遍唱念塔なる石碑があるが、これは念仏を百万回唱えれば極楽に行けるといふ寸法か？ちょっと唱えて見るか」

弥「お前さんナ、いくら短い真言と言っても、百万回唱えるのにどのくらいの時間が掛かるか知っているか？」

喜「左様なことは計算したことも無いナ」

弥「それではお教えするがナ、例えばこの寺の宗派である真言宗の最も肝心な真言はナ、光明真言という梵字でたった23文字のお経であるがナ、これを1回唱える時間は5秒程であるがナ、これを百万回唱えるにはだナ、1日に1万回唱えるとして毎日14時間の読経を100日間続けねばならないという計算になる。実はナ、哲学者の上山春平が実際に百万遍唱念をやってみたらしいが、何もしないでこの真言だけを唱え続けることは死ぬほど退屈な修業だったそうで、その退屈を紛らわすために行道をしたり火を焚いたりしながら真言を唱えたそうじゃ。空海も若い頃にナ、同様な修業法である求聞持法という修行で虚空藏経を百万遍唱えて弘法大師となったと自伝に書いておる」

喜「左様か。ところでその光明真言とやらを唱えてみるか。光明真言とはいったいどのようなお経か」

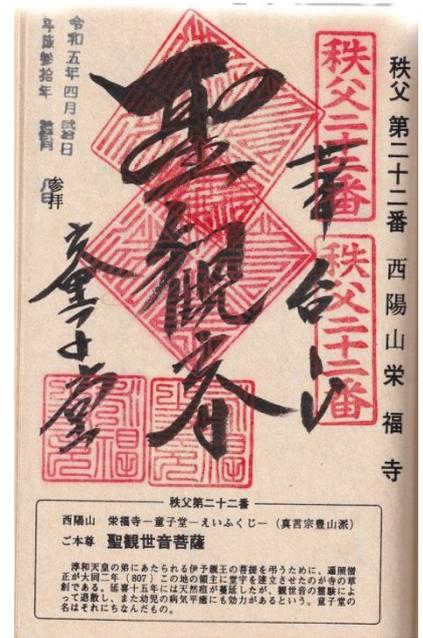


(観音寺の百万遍唱念塔)

弥「光明真言はナ、「おん あぼきや べいろしゃのう まかぼだら まにはんどま じんばら はらばり
たや うん」と唱えるものじゃ。その意味はじゃナ、「おのれを空しゅうして一心に唱え奉れば
御仏の光明を照らされて 三妄の霧自ずから霽れ 浄心の玉明らかにして 真如の月まどかならん」
という意味じゃ。どうじゃ、分かったか」
喜「分かった、分かった。お前さんの蘊蓄を聴くのはもう飽きたから、次の札所に行こうではないか」

真言宗 聖観世音菩薩 オン アロリキヤ ソワカ (2023/04/20 参拝)

第22番札所 華台山「童子堂」(秩父市)



(茅葺の仁王門、奥右の御堂が観音堂、更に奥の中央は親寺の永福寺本堂)

喜多八「この寺は田圃の中であって何の変哲も無いお寺だが、仁王門の茅葺屋根がたいしたものだな」
 弥次郎兵衛「左様だな。それに此処に祀られている仁王様はちょっと変わっているゾ。この寺の縁起はナ、その昔、子供達に疱瘡が流行った折に山奥に祀られていた観音様を拝して祈念し、岩間から湧き出る清水で洗ったところ、病はたちどころに消え失せたそうじゃ。それで、その観音様を本尊として山麓のこの地に移して祀ったのが始まりと言う。それで子供顔の仁王さまが祀られているという訳じゃ。童子仁王と言うが、顔の表情がユーモラスで愛嬌があるナ」

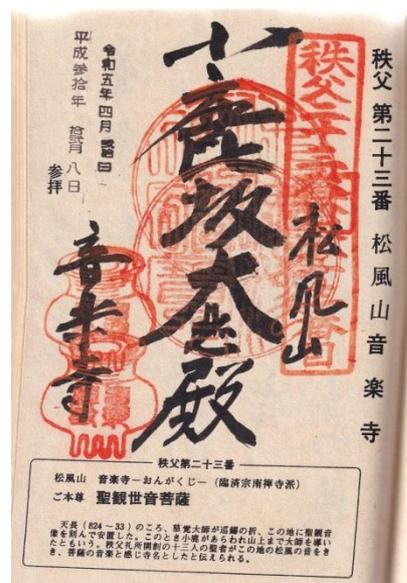


真言宗 聖観世音菩薩

オン アロリキャ ソワカ

(2023/04/20 参拝)

第 23 番札所 松風山「音楽寺」(秩父市)



弥次郎兵衛「オ～イ喜多八、もう少しゆっくり行ってくれ。このミュージックパークの坂道は心臓破りの丘だワイ」

喜多八「ヨシヨシ。ゆっくりと登って来い。納経所の上の観音堂までは長い階段の登りがあるゾ。しかし、ここは山の天辺だけあって足下に秩父市街地や秩父盆地の絶景が一望だナァ～」

弥「左様だ。冬には右のような雲海が見えるそうじゃ。左下に浮かんでいる橋脚が秩父のランドマークになっている新秩父大橋だ」



喜「この寺には寺ピアノが置いてある。流石寺号だけのことはあるが、音楽寺という寺号は珍しい。何の因果でこのような名前が付いたのか」

弥「それはナ、縁起によるとダ、昔々秩父観音霊場を創った閻魔大王、花山法王、白川法王、熊野権現、蔵王権現などの十三権者という大魔人達がこの山を通り掛った際に、折から聞こえて来た松籟が楽の音に似ていたから左様な名前「松風山・音楽寺」になったのだそうじゃ。

マ、チト安直単純過ぎて味も素っ気もないが、この辺りは秩父ミュージックパークの中だから、芸術の女神ミュージック様が命名されたのかも・・・」

喜「ホホウ、十三権者というのは初めて聞いたが、この寺は明治時代初期に秩父困民党 3,000 人が蜂起した際にこの寺に集結して鐘を打ち鳴らし、秩父の町になだれ込んだそうじゃナ」

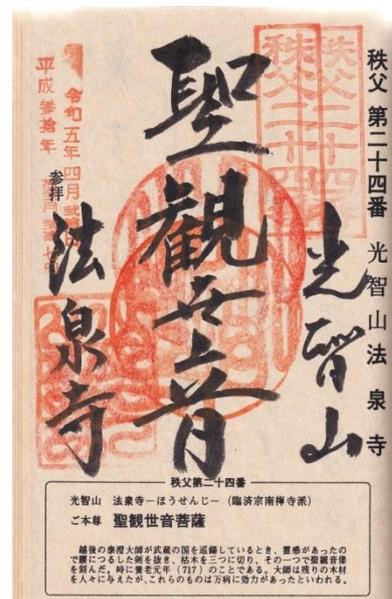
弥「ところで、次の札所は 24 番・法泉寺であるが、ここから一旦県道へ下って県道沿いに行くのが分り易いが、長尾根通しに行く江戸巡礼古道の方が風情があるらしいゼ」

喜「よしよし、折角だから江戸古道の方を行こうではないか」

臨濟宗 聖観世音菩薩 オン アロリキャ ソワカ

(2023/04/20 参拝)

第24番札所 光智山「法泉寺」(秩父市)



弥次郎兵衛「喜多八よ、前の札所・23番音楽寺からの江戸古道は随分とアップダウンが激しかったナ。途中で道が分からなくなって行ったり来たりで草臥れ切ったワイ。それに参道のこの長くて急な階段を見ると俺様は恐れをなしてきた。俺様はここで待っているから代参を頼むぜ」

喜多八「お前さんは俺様より若いし、登山でも鍛えた足腰なのにそのザマは何だい。よしよし分かった。今晚は般若湯の大判振る舞いを頼むぜ」

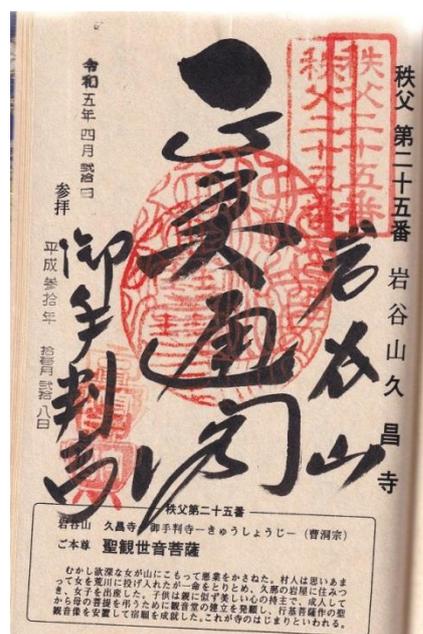
.....(参拝後).....

喜「この寺の観音堂の伽藍はちょっと変わっていたヨ。上の写真ではチト見づらいが、外陣の両袖に貼り出した回廊状の間が設えてあって、そこには阿吽の仁王様が祀られていたゾ。即ち観音堂と仁王堂を合体した非常に珍しい結構だそうナ」それにナ、このの聖観世音菩薩さまはナ、恋ヶ窪という所の遊郭の花魁が深く信仰していた観音様でナ、室町時代の美しい観音様だそうナ。お前さんは見逃して残念だったナ」

臨濟宗 聖観世音菩薩 オン アロリキヤ ソワカ
(2023/04/20 参拝)



第 25 番札所 岩谷山「久昌寺」(秩父市)



(・・・前の札所・24 番法泉寺を打ち終わって 25 番方面に少し歩いた道端で・・・)

弥次郎兵衛「オイ、喜多八よ。その向うに赤い大きな橋が見えるナ。これは荒川源流に掛かる巴川橋というのじゃがナ、その橋の袂を登り切った峠が今晚の宿「巴川荘」じゃ。本日の巡礼予定の最後の札所 25 番久昌寺はその峠から更に 1 時間ほど歩いた先じゃ。ところで物は相談じゃがナ、俺様は足の裏に出来た肉刺でもう完全にダウンじゃ。お前さん先に行って宿に荷物を預けて空身で次の 25 番を往復してくれないか。俺様の代参も頼むヨ。俺様は先に宿に入ってお前さんの帰りを待っているから」

喜多八「お前さん、だらしがねえナ。マ、仕方が無いワイ。代参料は高いぞよ。それでは先に行くぜ」

(・・・喜多八が宿に戻って来てから・・・)

弥「随分早かったではないか」

喜「俺様は韋駄天だワイ。往復でも 1 時間しか掛からなかったゾ」

弥「ところで、この寺は別名「御手判寺」というのじゃがナ、その御手判なるモノを見て来たか？」

喜「見るには見たがナ。御手判というのは播州書写山の開祖・性空上人が閻魔大王から贈られた石の手判をこの寺に納めた石判だそうじゃが、何の変哲もない珍奇なモノだったナ。

さてそれでは旨い晩飯でも頂戴するか。その前に乾いた喉をビールで潤したいもんだ」



(久昌寺の御手判石)

宿の亭主「今宵はようこそ巴川荘にお泊り下されましてありがとうございます御座いました。当館は料理に凝った宿として有名です。お食事も食堂などではなく、夫々のお部屋でゆっくりと召し上がって頂くことにしております。今晚のお料理はお品書きに書き付けておる通りでござりますが、特に秩父産の新鮮な食材を手間暇掛けて料理致したものでございます。解禁になったばかりの若鮎の塩焼き、猪の牡丹鍋、滅多に採れない岩茸の佃煮、秩父の山奥で採れた色々なキノコの蒸し煮、それに当館特製の公孫樹の樹液とその樹液で作ったワインをお楽しみ下さいませ。カナダには有名なメイプルシロップがありますが、小生が現地で調べましたところでは、その樹種、採取方法、精製方法、味わいとも当館製に遥かに及ばない代物でございました。また、この絵図には断崖にぶら下がり岩茸を採取している様子が描かれていますが、何しろ命がけの採取作業の結果皆様提供しているものでございます」

喜「ハイハイ、よく分りました」(言外に、講釈はもう十分に聞いたから、早く酒にして貰いたい)

弥「品数も多いし、喰いきれないボリュームだ。腹がパンパンになって死にそうだ」

曹洞宗 聖観世音菩薩
オン アロリキャ ソワカ

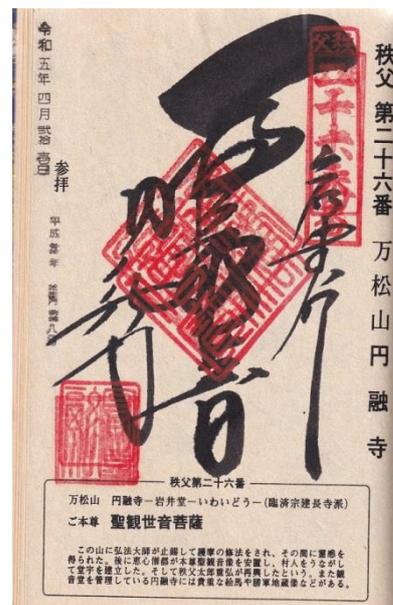
(2023/4/20 参拝)



第 26 番札所 萬松山「円融寺」(秩父市)



(懸崖に懸る舞台造りの 26 番・円融寺奥之院の観音堂「岩井堂」)



喜多八「麓の円融寺本堂から奥之院までレアメタルの工場構内を抜けて 300 段の石段を登ってきたが、これはキツかったナ。しかしこの奥之院の懸崖造りの観音堂を見ないことには 26 番の札所に参ったことにならんナ。三間四面、回廊と唐戸を設えた御堂は重厚でありながら、急な崖の斜面に軽々とその大屋根を支えて天に伸びているが如くダ」

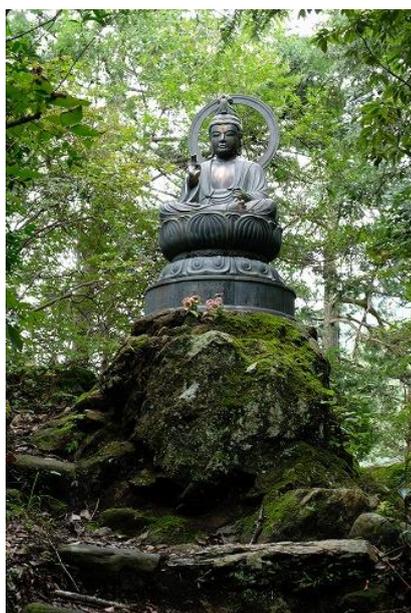
弥次郎兵衛「左様だナ。懸崖造りの御堂は鳥取県の「投げ入れ堂」が有名だが、こちらの方が堂々としているナ。それにこの上の尾根の岩山には高さ六尺の大仏坐像と修験堂もあるゾ」

喜「成程、ここは昔の修験道だったのか。こんな重い大仏をよくも担ぎ上げたもんだ。

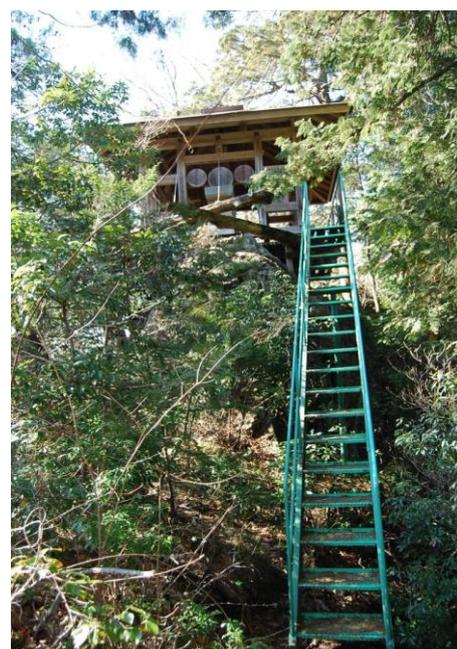
弥「次の札所の 27 番・大淵寺はこの尾根続きの麓にあるから、このまま尾根道を辿って行こうや。緑の薫風が気持ちの良いハイキングコースだからナ」

臨濟宗 聖観世音菩薩
オン アロリキャ ソワカ

(2023/04/21 参拝)

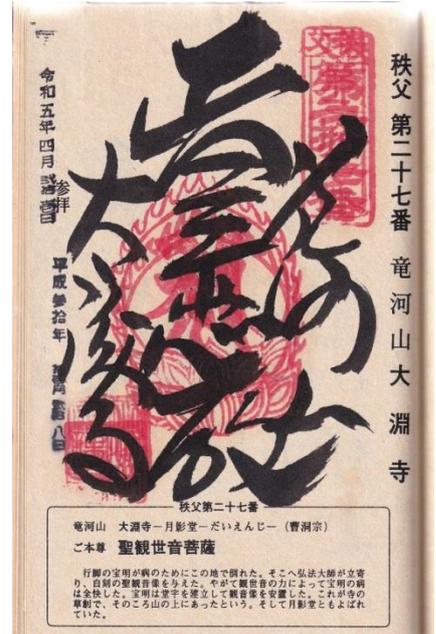


(大仏坐像)



(修験堂)

第 27 番札所 龍河山「大淵寺」(秩父市)



喜多八「前の札所からずっと爽やかな山道を歩いて来たが、足下に見えるのが次の 27 番札所・大淵寺かい？なかなか端正な観音堂であるナ」
 弥次郎兵衛「左様だナ。今回は山道から下って来たので裏口から入るがナ。山門は帰りにしっかり拝めば良いだろう」
 喜「先程山道の途中の山頂で拝んできた大きな白い観音像が見えるナ。護国大観音と書いてあったが、高崎観音、大船観音と並び称される日本三大観音の一つじゃそうナ」
 弥「境内には延命水という湧水があるそうじゃが、一口で 33 日間長生きすると書いてある。1 年間の延命をお願いするとすれば百口以上も飲まなければならないから、これはチト現実的ではないナ」
 喜「気は心じゃ」



(端正な観音堂)

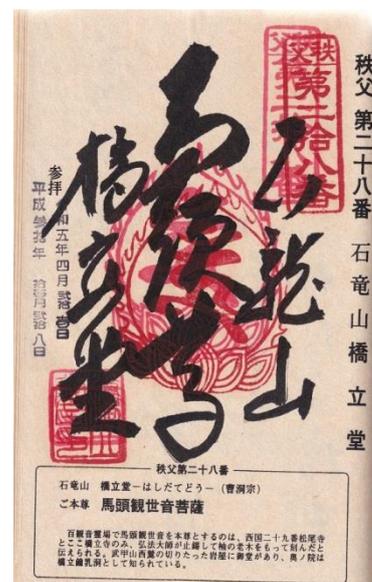


(護国大観音)

曹洞宗 聖観世音菩薩 オン アロリキヤ ソワカ

(2023/04/21 参拝)

第 28 番札所 石龍山「橋立堂」(秩父市)



(高距 80m もある垂崖の真下に造られた橋立堂の観音堂)

喜多八「この岩壁はたいしたもんだナ。秩父ジオサイトの一つであろうナ。その壁に張り付くように造られた観音堂も立派なもんじゃ」

弥次郎兵衛「左様だナ。それにここの御本尊は馬頭観音だ。日本百観音霊場の中でも馬頭観音を本尊として祀っているのはこの寺と西国の松尾寺の 2 寺だけじゃそうナ。坂東観音霊場 33 札所には一ヶ寺も無い」

喜「ここの表示板にその縁起が書いてあるゾ。曰く、昔々、この地に惨酷非道、仏神の信心無き領主が居って、この地の住民の皆が鑄造した地藏菩薩を崇敬しているのを見て、仏神の益何事あるうかと打ち壊しその財を己に費やせば領主たちまち病に死し、その子孫跡方も無く消えたという。間もなく大蛇が現れて里の憂いとなった。大蛇曰く「我、先に死し領主なり」。そこに白馬が現れて大蛇がこの白馬を一気に呑もうとすると、大蛇は石となって、白馬は本尊の御堂に走り込んだ。即ち、馬頭観音が白馬に化身して大蛇を退治したということだ。

左甚五郎作の 2 匹の白馬が奉納されている馬堂もあるゾ」



(左甚五郎作の馬 2 匹が奉納されている馬堂)

弥「俺様も干支は午であるから、ここの白馬は我がご先祖ということになるナ。有り難や、有り難や」
喜「このことがあってから、縁日には近在から馬を牽いた百姓の参詣者で大繁盛したと書いてある」
弥「ところで腹が減って来たナ。上手い具合に境内に蕎麦屋の茶店があるゾ。ビールで喉を潤しがてら秩父名物の蕎麦でも喰おうぜ」
喜「望むところだ」

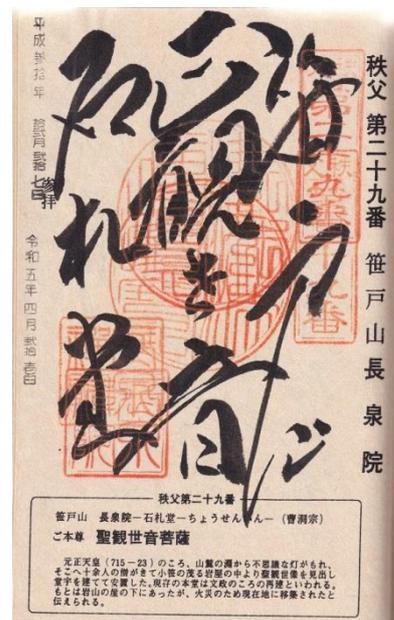


(境内の茶店)

曹洞宗 馬頭観音 オン アミリト ドハンバ ウンハッタ ソワカ

(2023/04/21 参拝)

第 29 番札所 笹戸山「長泉院」(秩父市)



(・・・前の札所 28 番・橋立堂から次の札所 29 番・長泉院へ辿る道すがら・・・)

喜多八「橋立堂から橋立古道なる田舎道を歩いて来たが、結構坂道の多いキツイ道だナ。やれやれ長い道のりだ。やっとあの谷の奥に見えてきたのが裏山ダムか。ここの道端に何か石碑があるゾ。どれどれ、芭蕉の句碑だな。「草臥れて 宿かる頃や 藤の花」とある」



(裏山ダム)



(路傍に建っていた芭蕉の句碑)

弥次郎兵衛「左様だ。秩父市街にある札所は歩きでも簡単に廻れるが、郊外にある札所は何処も山の中ばかりだから芭蕉翁が言うように草臥れるなァ〜。

喜「物の本によれば、次の長泉院という札所は石札という納め札が寺室になっておるそうじゃが、これはいったい何かいな」

弥「実はナ、秩父観音霊場を開いた十三権者というのが居てナ、その中には閻魔大王、花山法皇、白川

法王も含まれているからして些か胡散臭いではあるがナ、それは兎も角としてだナ、彼らが初めて秩父を巡錫した折に十三権者の一人である熊野権現が熊野産の黒石に「石札定置巡礼」と刻んだ石札を奉納したことが縁起と伝えられており、その石札がこの寺の寺宝として本堂の厨子に納められているということじゃ。熊野権現が奉納したこの石札は、日本百観音の内ではこの寺と坂東の筑波「大御堂」、西国の摂津「中山寺」の3ヶ寺にしかないそうだ。それにナ、この寺の観音靈験記は一見の価値があるゾ。どこの寺にもぶら下がっている三千代作なる靈験記のコピーの説教画は味も情緒も無いが、この寺の靈験記の原典はなかなかに見応えがあるナ。その靈験記に記された開山縁起は下記のようなものだ。龍女の御顔が素晴らしいではないか。



(熊野権現が奉納した熊野黒石の石札)

“人皇 44 代元正天皇（奈良時代の女帝）の御代、この山の麓の淵より龍に乗った女（女に化けた龍神 or 龍に化けた女）が龍灯を燈して毎夜毎晩この山の窟に通っていた。里人、これを怪しみ、また尊んでいたが、年を経て上記の十三権者一行が当地を巡錫した際に里人に案内させて笹を掻き分けながら戸を開けてこの窟に入ってみたところ、窟内には燦然と輝く観音菩薩がましましていた。一行はこの奇瑞を喜び堂宇を建ててこの観音様を祀ったのがこの寺の始まりという。山号「笹戸山」はこの故事に拠る”。

マ、貴様は古文が読める学が無いから龍女の御顔だけでも拝顔すれば功德が得られるぞ。これぞ仏縁。

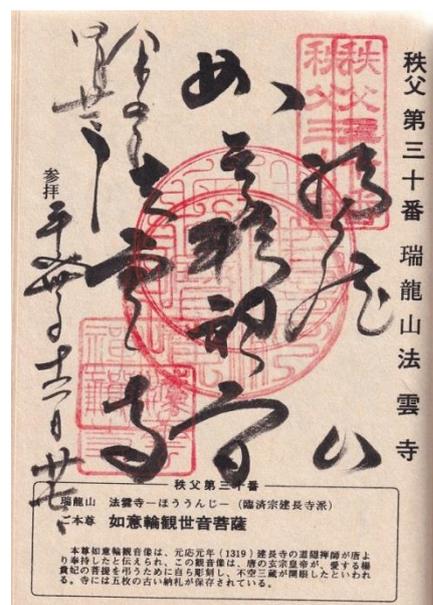
さて、そろそろ本日最後の札所 第 30 番・法雲院に参ろうか

曹洞宗 聖観世音菩薩
 オン アロリキヤ ソワカ
 (2023/04/21 参拝)



(観音靈験記 長泉院之部「龍女」)

第 30 番札所 瑞龍山「法雲寺」(秩父市)



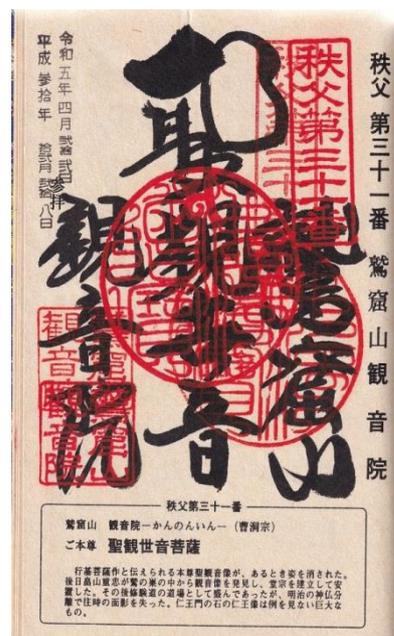
喜多八「この寺は狭い境内ながら庭木が綺麗に手入れされているナ。躑躅や藤や牡丹が満開だ」
弥次郎兵衛「左様だナ。しかし、峪のどん詰まりにあるこの寺は秩父鉄道「白久駅」から結構な登りでキツかったナ。直ぐ裏には東京都の最高峰・雲取山も見えるナ。相当の山の中じゃナ」
喜「ここの本尊の如意輪観音は、唐の玄宗皇帝が楊貴妃の菩提を弔うために自ら刻んだ如意輪観音像をこの寺の開祖(建長寺の道穩禪師)が唐より奉持したと伝えられておる。この如意輪観音像は楊貴妃の姿を刻んだ楊貴妃観音であるから、その艶なご尊顔を拝したいものじゃ」
弥「俺様もその艶な姿を拝みたいもんじゃが、秘仏であるから毎年4月18日の観音縁日以外には公開されていないのが残念じゃ。玄宗皇帝には妖艶な傾城のお顔を見せながら、マ、貴様如き衆生には後ろを向いて如意輪観世音菩薩の一面である背面の恐ろしい般若の面をお見せになるのかも知れんゾ。或いはまた「玉藻の前」に化けた七本の尻尾を持つ古狐かも知れんナ。マ、どっちにしてもお前さんが見ると罰が当たって眼が潰れるから見ない方がよろしいぜ」
喜「何を言うか、この糞っ垂れメ」
弥「扱て、これで秩父盆地のお盆の中にある秩父霊場の30札所は全て巡ったことになる。次の31番から34番までの4ヶ寺は盆地の縁の峠を越えた外側の小鹿野町と皆野町にある*。今晚の宿は小鹿野町の両神温泉だ。秩父鉄道三峰口駅からバスで30分。ゆっくり温泉にでも浸かって般若湯を傾けようぜ」

臨濟宗 如意輪観世音菩薩 オン ハンドマ シンダマニ ジンバラ ウン

(2023/04/21 参拝)

註)* 正確に言えば、この4寺の内の33番菊水寺は秩父市の領域内にある

第31番札所 鷲窟山「観音院」(小鹿野町)



(観音院山門)

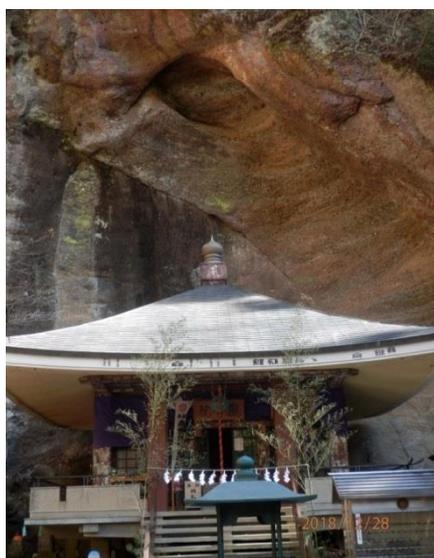
喜多八「集落も民家も無いこんな山中に立派な太鼓橋と山門があるゾ。これが観音院の山門か。ここの仁王像は上の山から切り出した巨岩を一岩彫りで刻んだ石像だそうで、一岩彫りの石像としては日本一の大きさだそうだな」

弥次郎兵衛「見たところ仁王様の身長は4尺もあり、重さも5トくらいはありそうだ。一体こんな巨岩をどうやって運んだのかネ」

喜「縄でぶら下げて下したと書いてあるが、このような巨岩を縄で降ろせるはずは無いナ」

弥「ここから上の観音堂までは300段の急な石段だそうだよ。マ、元気を出して登らざるを得まい」

喜「やっと観音堂に着いたゾ。この大きな窟の中に造られた観音堂も大したものだ。観音堂の横には清浄ノ滝と言う滝があるが、昔の修験行者はここで滝に打たれて修行したのだらうナ。滝の横では不動明王が見守っているが、この不動明王像も風格があるナ」



(窟の中に造られた観音堂)



(清浄ノ滝、今日は涸れていた)



(格調高い不動明王) — 50 —

弥「滝の横の岩壁には弘法大師が一晩の内に爪で彫ったという小さな千躰の磨崖仏が刻まれている。
この磨崖仏は埼玉県指定史跡になっているが、長い間の風雪に曝されて今では判別しづらくなっているナ」

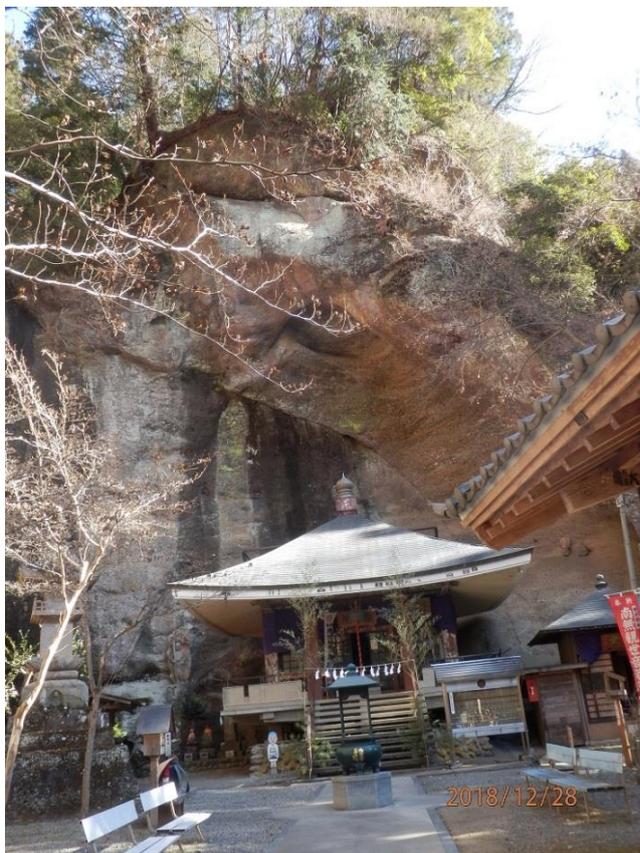


(弘法大師爪彫りの磨崖仏)

喜「ここの境内には全部で11万躰ほどの石仏が安置されているそうじゃが、ちょっとそれらを観に行こうではないか」

弥「分かった。この寺の奥ノ院にはナ、東奥ノ院と西奥ノ院があり、この観音山（標高698m）全体が伽藍になっておって、その伽藍をグルグルと廻り巡って修験の修業を行なったのであろう。その道々に11万躰の石仏が祀られておるといふ寸法じゃ。11万躰もの石仏がある寺というのは滅多に無いぜ。今は西奥ノ院は崩壊が激しくて入山禁止になっているが、東奥ノ院の方は行けるので、早速に行こうヤ」

喜「ここに馬の蹄跡洞窟の石仏群というのがあって、ここにも沢山の石仏が安置されているナ。東奥ノ院には慈母観音が祀られているが、風化が激しいとは言え、得も言われぬ風格があるナ。相当な仏師の手によるものだろうナ」



弥「いずれにしても、この札所は秩父観音霊場の内でも天下一品だナ。キツイ石段を登って来た甲斐があった」



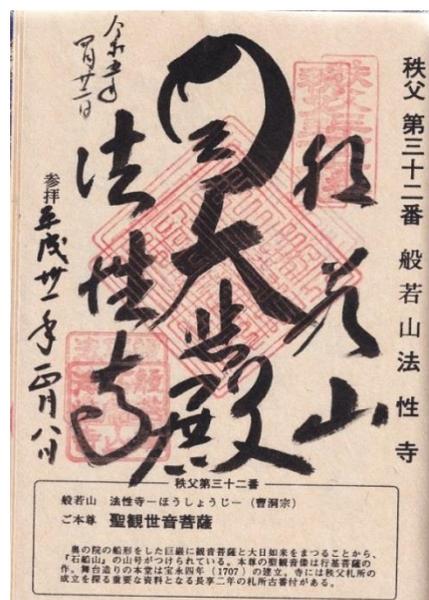
(馬の蹄跡洞窟の石仏群)

曹洞宗 聖観世音菩薩
オン アロリキヤ ソワカ

(2023/04/22 参拝)



第32番札所 般若山「法性寺」(小鹿野町)



(重厚な法性寺の重層楼門の山門、山号扁額「般若山」の字体に風格が感じられる。重層の二階は鐘楼)

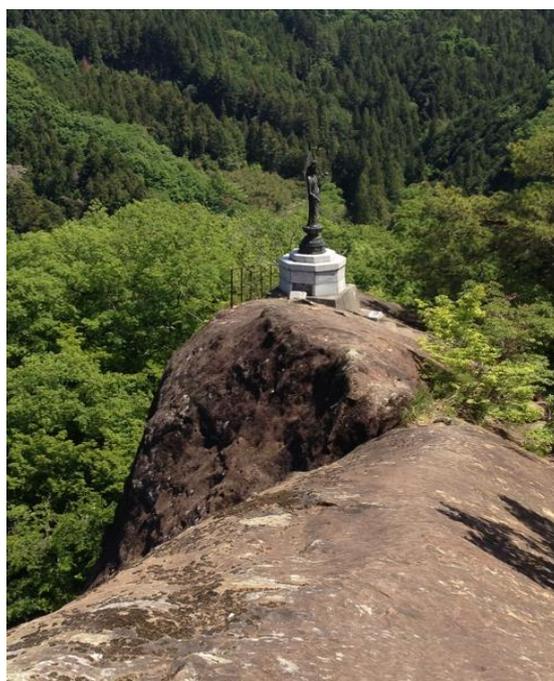
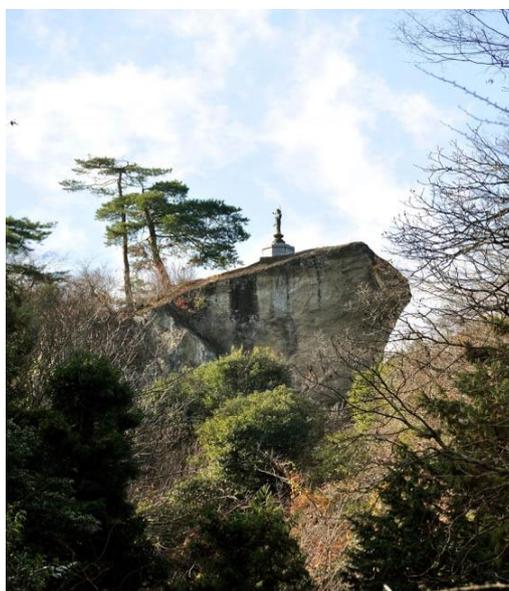
喜多八「山門を入る時にナ、山門二階の鐘楼で鐘を撞いてきたが、聞こえたか？。鐘楼が山門と一緒に
なっているのは秩父観音霊場札所ではここだけだろうな」

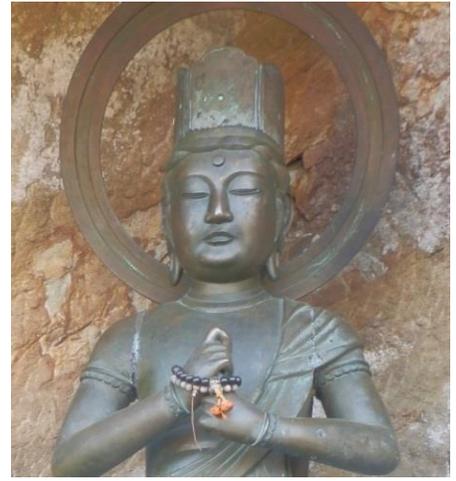
弥次郎兵衛「聞こえたことは聞こえたがナ、破れ鐘だったゾ。信心が足らんワイ」

喜「ここも岩だらけの寺だが、やはり秩父ジオサイトの一角でもあろうナ。ところで、御踏み石から遙
拝すると、山の天辺の露岩が出張った端に塔のような物が見えるがあれは何じゃ」

弥「あれはナ、お舟岩という長さ 200m、高さ 80m の船形をした巨大な露岩で、砂岩が浸食されて出来た
突き出した断崖だそうで、これも法性寺のジオサイトだそうナ。大きな露岩のお舟の舳に祀られて
いるのがこの寺のご本尊の聖観世音菩薩じゃ。別名お舟観音とも言うナ。一方、この舟の艦には大
日如来が祀られているゾ。何れも鎖を伝って登る険しい山坂道じゃ。昔はこの山坂道を日に何回も
上り下りして修行したのであろうナ。俺様は前回
登ったから、お前さんも登って修行して来いや」

(お舟岩と
お舟観音⇒)





(露岩のお舟の龕に安置されている大日如来。右も同左)

喜「それでは、まずは観音堂に参ろうではないか」

弥「先に本堂を拝むか。本堂御本尊の御前立はチト変わった格好をされているがナ、これはお舟観音菩薩と申してナ、菅笠を被って手で櫂を漕いでいる舟方のお姿じゃ。さっき話したお舟岩とも伝承が関係するがナ、お舟観音の由来は次のようなものじゃ。

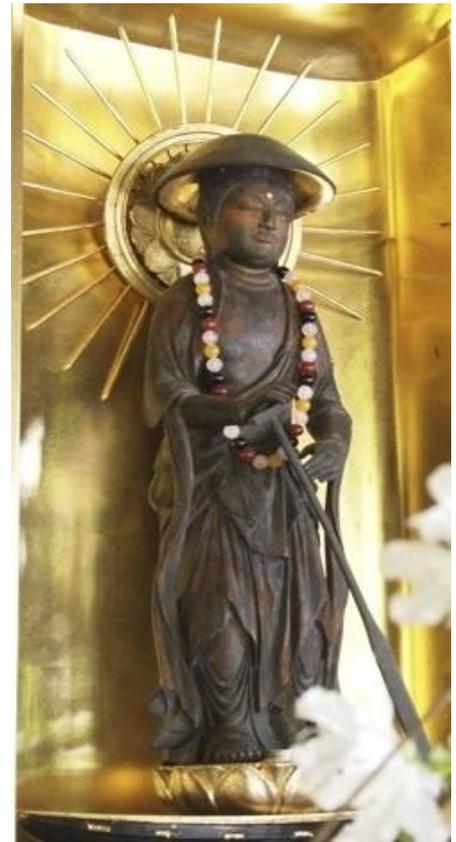
“昔々、当地豊島郡の住人、豊島権守が娘を同郡に嫁がせた。ある時娘が里帰りをしようと舟に乗ったところ、犀ヶ渚で悪魚にみそめられ、水底に引き込まれそうになった。その時、一人の美女がその娘を助けて、舟に戻してくれた。従者たちは夢のように喜び、「どなたですか」と尋ねると私は岩船山の者です。御父上をはじめ、主従がよく観音様を信じているので危難のところを助けました」と答えて消え去った。この不思議な光景を権守に伝えたところ、歓喜の涙を流してご利益を尊び、その恩謝として諸所を巡礼した。そして当山を参拝し帳をあげて拝むと、なんと笠を冠った観音様が居られた。

涙を流し、三日三晩般若心経を写して供養をした（「或漂流巨海 龍魚諸鬼難 念彼観音力 波浪不能没」(妙法蓮華經 観世音菩薩普門品偈)の一節)”。

観音堂の観音画にも同様なお舟観音が描かれておるゾ」

(右上：本堂前立 お舟観音)

(右下：観音堂のお舟観音画)



喜「成程、なるほど。櫂を持って舟を漕いでいる観音菩薩は珍しいナ」



弥「さて、観音堂に参ろう。舞台造りの立派な御堂じゃナ。」

喜「観音堂の裏の崖はそこら中に穴が開いている岩壁となっているが、あれは何かいな。やはり秩父独特のジオサイトだろうナ」

弥「良いところに眼を着けたナ。左様じゃ、この小さな穴が無数に開いた蜂の巣状の岩盤はナ、タフォニという地質学上の現象によって出来た珍しい物だ。岩に含まれていたナントカという元素が石灰水か何かに溶かされて流れ出した穴の跡だそうナ」



(タフォニ現象によって出来た無数の穴ぼこ)

(←観音堂)

(↓ 怪しい雰囲気のおの院登り口)

喜「観音堂から上はいよいよ山道になってきた。ここが奥ノ院との結界だナ。何やら怪しい雰囲気になってきたゾ。それではお前さんはここで待っている。俺様は奥ノ院を拝んで来るぜ」

弥「足元が落ち葉で滑るし、一枚岩の露岩に掘り込まれた急な石段も滑りやすいし、壊れそうな鎖場もあるから地獄に墜落しないようにナ」



(奥ノ院直下の石仏群。「奥の院まであと一步」)



(年期を経た観音菩薩と不動明王か?) — 5 5 —

(・・・喜多八が奥ノ院から下山して・・・)

喜「お舟岩は怖かったナ。一枚岩の岩の尾根は馬の背で足を滑らせるとたちまちあの世行きだァ〜。大日如来のおわしますお舟岩の鱧も鎖場が崩れていて怖かったゾ。最近とみに足腰が弱ってきているお前さんは登らなかったのが正解だったナ」

弥「左様、左様。ところでナ、山門の横のこの石仏を見て見ろ。どこにでもある六地藏ではあるがナ、六体を同じ一つの石塊に彫り込んでいる石仏は珍しいのではないか」

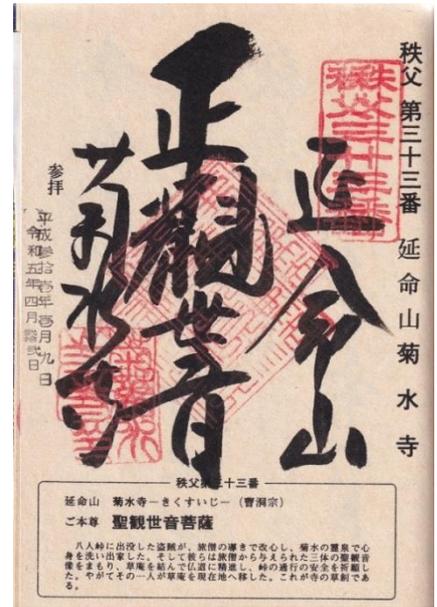
喜「左様じゃナ。本日は一つ前の観音院といい、この法性寺といい、石仏だらけの良い札所に参らせて頂いた。オン アロリキャ ソワカ」

弥「それではナ、退出する前に良い物を見せて差し上げよう。これはナ、この寺が観音信仰巡拝客で大繁盛していた頃の江戸時代の参詣図であるがナ、大勢の巡礼で大混雑している境内の様子が手に取るように分かるナ」



曹洞宗 聖観世音菩薩 オン アロリキャ ソワカ (2023/04/22 参拝)

第 33 番札所 延命山「菊水寺」(秩父市)



弥次郎兵衛「喜多八ヨ、前の札所の法性寺からは谷あり山あり田圃ありの長い道のりで草臥れたナ。

ところで、この寺は前の二つの山寺と違って平地の畑の中にあるので風情が無いがナ、本堂の伽藍の造りがチト変わっていてナ、本堂の外陣は広い土間になっていて、その奥の内陣は直接土間にオープンになっているからご本尊も目の前に見えるゾ」

喜多八「左様だナ。広い土間じゃナ。

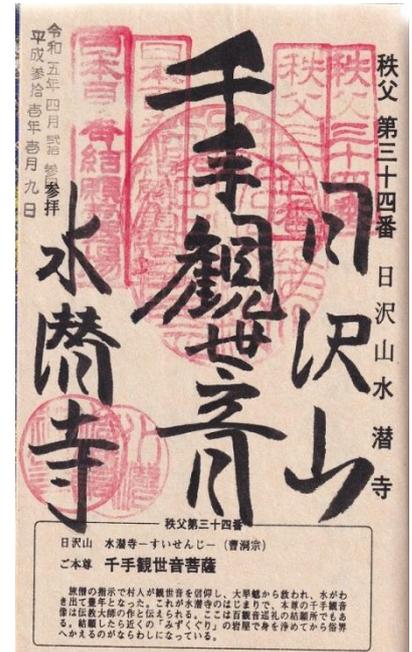
香炉も灯明台も本堂の土間の中にあるから線香の匂いが本堂に満ち満ちていてなかなか具合がよろしいではないか」

弥「それにナ、土間の壁の天井を見上げて見ろ。両側の壁に二つの絵図が掛けてあるだろう。一つは江戸時代に流行った間引き（嬰兒殺し）を戒めた絵図じゃ。般若の顔をした間引き婆が産まれた子供の首を絞めている絵はちょっと凄味があるナ。もう一つの方は孝行和讃とってナ、当時の寺子屋の親孝行修身の教科書じゃ。それにしても今日はくたくたに草臥れたから早く今晚の宿「民宿・白砂荘」に入って一献傾けようではないか。



秩父観音 34 札所巡拝も残るは明日の 1 ケ寺で結願だし、秩父での泊まりも今宵が最後だからナ」

第 34 番札所 日沢山「水潜寺」(結願寺、皆野町)



喜多八「昨夜泊まった民宿「白砂荘」はなかなかによろしかったナ。般若湯も誠に結構だった。ところで、本日は江戸古道を歩いて札立峠という大きな峠を越えて結願寺まで行かねばならぬのだが、これは長くてキツそうな山道だナ。日曜日というのに、巡礼にもハイカーにも誰一人遇わないゾ」

弥次郎兵衛「左様だな。標識が消えてしまったナ。集落も民家も全く無い山中だから道を尋ねる術も無いヨ。この分岐はどちらの方へ行けば良いのかネ。ちょっとスマホで調べてくれないか」

喜「スマホは電波が弱くて道案内の役に立たなくなってきた」

弥「便利なようで不便なモノだナ。俺様などは、左様な文明の利器は持たないが、地理院の5万図幅さえあれば読図力で頭の中に鳥瞰図が出来るからバッチグーだヨ。スマホのような道具に頼るから頭が退化するのではないか。ところで札立峠は未だ先か。足腰が痛くてもう一歩も歩けないゾ」

喜「スマホが生き返った。後へアピンカーブを4ツばかり曲がって登ると札立峠だ。兎も角も次の寺まで辿りつかないことにはどうにもならんヨ」

弥「札立峠は何とか越えたが、峠からの下りがゴロタ石の急なトレンチで石に躓いて転倒しそうだワイ。寺の屋根は未だ見えないか」

喜「煩い奴じゃナ。信仰心が足らんゾ。慚愧懺悔、六根清浄、慚愧懺悔、六根清浄・・・」

弥「あ～あ、やっと着いたか。長かったなァ～、草臥れ申した。さて、結願じゃ。般若心経を誦経しようではないか。仏説摩訶般若波羅蜜多心経 観自在菩薩 行深般若波羅蜜多時 照見五蘊皆空 度一切苦厄 舍利子 色不異空 空不異色 色即是空 空即是色 受想行識亦復如是 舍利子 是諸法空相 云々・・・」

喜「この寺は秩父 34 観音霊場だけでなく、西国、坂東も合わせた日本百観音霊場の結願寺でもあるナ。百観音御砂踏み、百観音功德車というのものもあるゾ。御砂を踏み、功德車を廻していこう」

弥「山門を入るとすぐの所に何やら由緒ありそうな大きな鑄造碑があるが、あれは何じゃ」

喜「お釈迦様の仏足石が彫ってあるナ。きっと由緒深いものではなかろうか。貫録もあるよ」



(仏足石の鑄造碑?)

喜「一週間掛ったが、これで秩父観音霊場巡礼を無事結願いたした。最後に 34 札所の御本尊の真言を唱えようや。

聖観音：オン アロリキヤ ソワカ、
 十一面観音：オン マカ キャロニキヤ ソワカ、
 千手観音：オン バザラ タラマ キリク ソワカ、
 如意輪観音：オン ハンドマ シンダマニ ジンバ
 ラ ウン、
 馬頭観音：オン アミリト ドハンバ ウンハッタ
 ソワカ、
 准胝観世音菩薩：オン シャレイ ソレイ ソンディ
 ソワカ」

弥「喜多八よ、結願、誠に結構であった。御利益と験が期待できるゾ。但し、これからは悪事を働かないことが肝腎じゃ。特にお前さんはじゃナ、不邪淫、不邪淫、不邪淫、……じゃ」

喜「ご心配に感謝申し上げるが、拙者はそちらの方面はとっくの昔に卒業いたした」

曹洞宗 千手観世音菩薩
 オン バザラ タラマ キリク ソワカ
 (2023/04/22 参拝、結願)



(最後までお読み頂き、有難うございました
 左：喜多八、右：弥次郎兵衛、観音院にて)

(完)